

平成 27 年度  
市内遺跡発掘調査等事業報告書

2017

甲州市教育委員会

平成 27 年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2017

甲州市教育委員会

## 序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成27年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。27年度は10地点の遺跡について試掘調査を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成29年3月31日

甲州市教育委員会

教育長 保坂 一仁

## 例　言

- 1 本書は、平成 27 年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

## 凡　例

- 1 本書中、各遺跡の調査地点を示した図（4 ページ）は国土地理院発行の 1/50,000 地形図（御岳昇仙峡、丹波、都留）を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示してある。
- 3 摂図は、遺跡ごとに連続する番号を付した。
- 4 遺物観察表中、法量（口径・器高・底径・長さ・幅・高さ・厚さ等）の単位は cm である。

## 目　次

### 序

### 例言・凡例・目次

第 1 章 遺跡の所在確認業務について	1
第 2 章 発掘調査等について	1
第 3 章 発掘調査等の概要	2
第 1 節 事業費	2
1 事業経費収支予算書	2
2 事業経費収支精算書	3
第 2 節 発掘調査等	5
1 横井・大木戸遺跡	5
2 橋爪氏屋敷	11
3 塚穴遺跡	21
4 塙山前遺跡	29
5 影井遺跡	33
6 千手院前遺跡	45
7 横井・大木戸遺跡	54
8 宮光園	58
9 織塙向田 187-1 他	63
10 織塙大正 663-1 他	67

### 抄録・奥付

## 第1章 遺跡の所在確認業務について

平成27年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁	甲州市教育委員会教育長
曾根 浩	教育委員会文化財課長
小野正文	文化財課文化財指導監
飯島 泉	文化財課歴史まちづくり担当リーダー
岩間大介	文化財課歴史まちづくり担当
柳通めぐみ	文化財課歴史まちづくり担当
	八巻一也 文化財課文化財保護担当リーダー
	入江俊行 文化財課文化財保護担当
	北井靖人 文化財課文化財保護担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、27年度は307件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの275件、不動産鑑定に伴うもの32件であった。

## 第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、10件については試掘調査を実施した。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 入江

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・栗原礼子・栗原洋一・土屋晴子・萩原里江子・正木なつ子

## 第3章 発掘調査等の概要

### 第1節 事業費

#### 1 事業経費収支予算書

収入の部

	金額	備考
国庫補助金	1,240,000 円	2,480 千円の 50%
県費補助金	500,000 円	2,480 千円の 25%以内
甲州市負担金	740,000 円	
計	2,480,000 円	

支出の部

	金額	備考
報償費	0 円	
旅費	0 円	
賃金	1,434,000 円	発掘 138 日 × 7,000 円、整理 78 日 × 6,000 円
需要費	398,000 円	
消耗品費	20,400 円	調査・整理消耗品
印刷製本費	377,600 円	報告書 1,150 円 × 300 冊 × 1.08、他写真・資料コピー等
役務費	0 円	
委託料	0 円	
使用料及び賃借料	648,000 円	機械借上げ 32,400 円 × 20 日
計	2,480,000 円	

## 2 事業経費収支精算書

## 収入の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
国庫補助金	1,240,000円	2,480千円の50%
	1,240,000円	
県費補助金	500,000円	2,480千円の25%以内
	500,000円	
甲州市負担金	990,293円	
	740,000円	
計	2,730,293円	
	2,480,000円	

## 支出の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
報償費	0円	
	0円	
旅費	0円	
	0円	
賃金	1,460,000円	発掘 107日×7,000円、整理 118.5日×6,000円
	1,434,000円	
需要費	330,693円	
	398,000円	
消耗品費	36,825円	図面ファイル、ポリ袋、養生テープ、面相筆、土嚢袋等
	20,400円	
印刷製本費	293,868円	平成26年度市内遺跡発掘調査等事業報告書
	377,600円	
役務費	0円	
	0円	
委託料	0円	
	0円	
使用料及び賃借料	939,600円	重機借上げ 939,600円
	648,000円	
計	2,730,293円	
	2,480,000円	



平成27年度市内遺跡発掘調査地点

## 第2節 発掘調査等

### 1 横井・大木戸遺跡

(1) 所在地 甲州市塩山熊野 496-4,495-2,485-2,483-2,480-3,476-3

(2) 調査面積 約 139.7m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 27 年 4 月 9 ~ 10 日

(4) 調査原因 市道整備

(5) 調査結果

当地は、重川右岸の微高地上にあたり、埋蔵文化財包蔵地である横井・大木戸遺跡（平安時代・散布地）の範囲内となっている。当地内に市道下塩後 22 号線新設のための工事が行われることとなり、新設道路部分について試掘調査を実施することとなった。

新たに市道を整備する予定敷地内（現状畠地）に 5 本のトレント（試掘坑）を設定し調査を行った。トレントは東側から A、B、C … と名を付した。

A トレントは約 14.0m × 1.9 m で設定し、地表から約 40cm で灰黄褐色砂質土に達し、この面で遺構確認を行なったところ、耕作による搅乱が著しかったが、竪穴住居跡 1 、溝ないし住居 1 、小穴（ピット） 6 を検出した。遺物は遺構確認面から土師器片を検出している。

B トレントは約 13.1m × 1.5 m で設定し、地表から約 40cm で灰黄褐色砂質土に達し、この面で遺構確認を行なったところ、耕作による搅乱のほか、竪穴住居跡 1 、溝ないし住居 1 、小穴 1 を検出した。遺物は遺構確認面から土師器片を検出している。

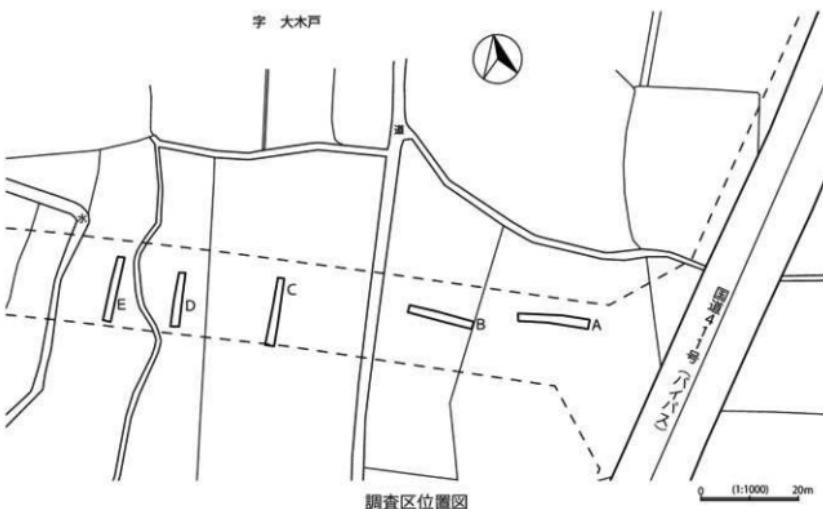
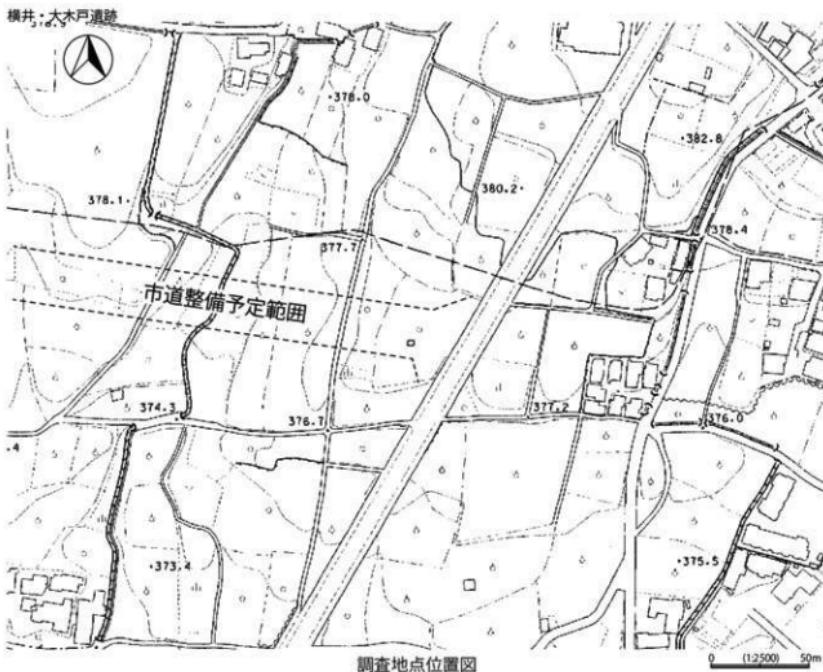
C トレントは約 13.6m × 1.6 m で設定し、地表から約 30cm で灰黄褐色砂質土に達し、この面で遺構確認を行なったが遺構は検出されなかった。

D トレントは約 10.7m × 1.6 m で設定し、地表から約 40cm で土師器片を微量含む黒褐色土層（3 層）を検出したが、遺構覆土とは判断できなかったため、地表から 70cm まで掘削した。その結果、地表下 60cm で酸化鉄を含む暗灰褐色砂質土（4 層）を検出し、地表下 70cm で酸化鉄を含む灰白色の砂層（5 層）を検出しており、4 層以下が地山と考えられる。遺構は検出されなかった。遺物は 3 層から土師器片が微量検出された。

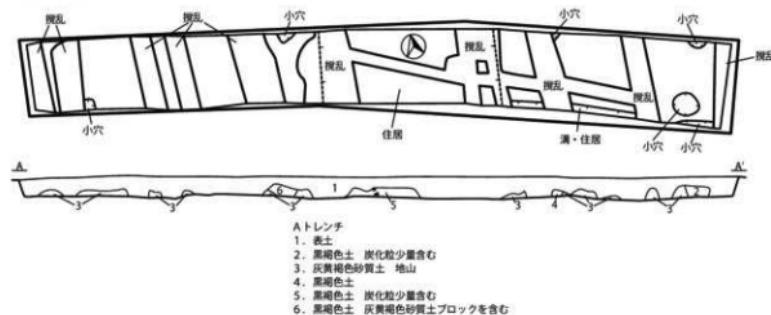
E トレントは約 13.1m × 1.6 m で設定し、地表から約 30 ~ 40cm で黄灰褐色砂質土に達し、この面で遺構確認を行なったが搅乱（現代のごみ穴）が多く遺構は検出されなかった。

調査の結果、A・B トレントから、平安時代のものと考えられる遺構・遺物が検出された。A・B トレントは調査区の中で東側に位置し、C・D・E トレントに対して高い位置にある。一方、西側の沢へ落ち込む低地に位置する C・D・E トレントからは遺構は検出されなかった。このことから横井・大木戸遺跡の西限が、B・C トレント間にになると推定される。

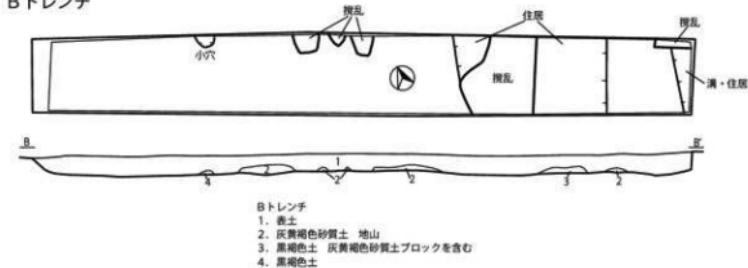
試掘調査の成果を受けて、平成 27 年 9 月から本調査が実施された。



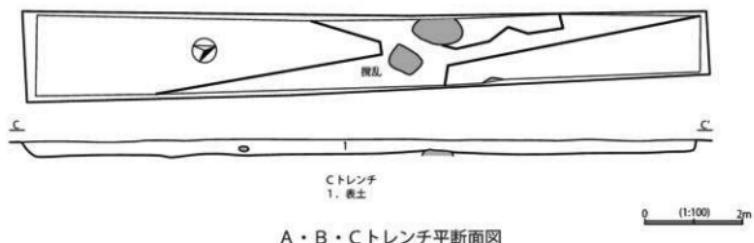
## A トレンチ



## B トレンチ

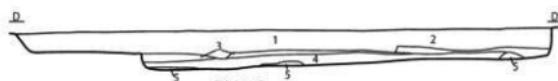
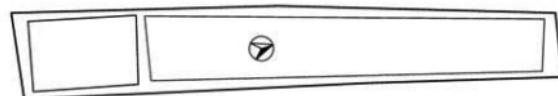


## C トレンチ



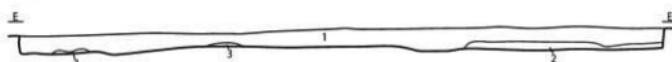
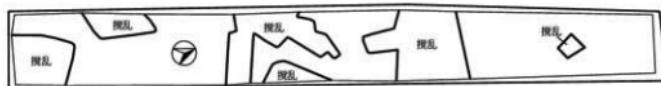
A・B・C トレンチ平断面図

D トレンチ



- D トレンチ  
 1. 表土  
 2. 黒褐色土 砂粒ブロック含む  
 3. 黒褐色土 土礫片微量含む  
 4. 喬灰褐色砂質土 腐化鉄含む 地山  
 5. 灰白砂層 鹽化鉄含む

E トレンチ



- E トレンチ  
 1. 表土  
 2. 黒褐色土 しまり強い、粘性強い  
 3. 黄灰褐色砂質土 地山

0 (1:100) 2m

D・E トレンチ平断面図



A トレンチ遺構確認（東から）



A トレンチ土層断面（南東から）



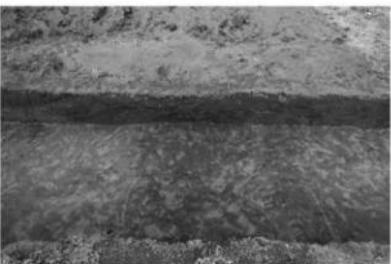
A トレンチ検出遺構（南西から）



B トレンチ遺構確認（東から）



B トレンチ土層断面（南東から）



B トレンチ検出遺構（南から）



C トレンチ遺構確認（南から）



C トレンチ土層断面（南東から）

横井・大木戸遺跡



D トレンチ遺構確認（北から）



D トレンチ土層断面（北東から）



E トレンチ遺構確認（南から）



E トレンチ土層断面（北東から）

## 2 橋爪氏屋敷

- (1) 所在地 甲州市塙山上於曾 1435-14
- (2) 調査面積 約 28.6m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 27 年 4 月 21 日～27 日
- (4) 調査原因 個人住宅
- (5) 調査結果

当地は、塙山市街地を南流する重川と塙川に挟まれた微高地上にあたり、埋蔵文化財包蔵地「橋爪氏屋敷」の範囲内にあたる。橋爪氏屋敷は『上於曾村村鑑明細帳』や『甲斐国志』によると、橋爪和泉守の屋敷があり、後、慶長年間の検地によって畠地となったとされ、在地領主の屋敷の存在が推定されている。また、近隣にも於曾三郎屋敷や於曾屋敷など中世の館跡の伝承や堀・土塁を残す遺跡が存在している。

平成 26 年 4 月に実施した宅地造成に伴う試掘調査では、6 ケ所全てのトレンチから住居跡や土器片といった遺構遺物が確認されたため、進入路予定部分（約 40m × 6m）について本調査を実施することとなり、6 月～7 月にかけて本調査を行った結果、竪穴住居 8 軒、土坑 1 基、溝 1 本、小穴 3 4 基等の遺構を検出しておらず、平安～中世の遺物が確認されている。

今回の住宅の設計では、基礎を G L から 50cm まで掘り下げる計画となっているが、前回の試掘調査時に遺構面が G L から 60 ～ 70cm のあたりに存在することがデータとして得られており、遺構に対する保護層を 30cm 以上確保できないと判断し、記録保存のための調査を行うこととなった。

調査の対象地は平成 26 年 4 月に実施した試掘調査の C トレンチ付近に相当しており、住居跡や溝、小穴などが検出され、今回の調査でもそれらの遺構が検出されることが想定された。

調査は、重機によって表土掘削を行った後、人力で遺構確認作業を行い、測量・写真撮影等の記録作業を実施した。

表土下約 70cm で、地山と考えられる明黄褐色土を検出したため、この面で遺構検出を行うこととしたが、土層断面を観察したところ、土地の造成に伴って旧状の地形に盛土が施されていることがわかった（北壁・東壁 1 層）。盛土の厚さは、北半では 10cm 程度、南半では 30 ～ 40cm を測り、南半では保護層を確保できると考えられるため、この段階で、調査対象地を北半のみに絞って、調査を進めることとした。

調査で確認された遺構は、竪穴状遺構 1 基、溝 2 本、土坑 1 基、ピット（小穴） 3 基である。

1 号竪穴は調査区東側に位置し、北辺の壁面を確認している。東・西・南面は調査区外に延びるため平面形態は不明であるが、規模は 2.5m 以上を測る。調査範囲が狭小であるためか炉・カマド・ピット等の付帯遺構は検出されていないが、住居跡の可能性もある。遺物は、土師器小片が出土している。遺構の年代は平安時代の所産と考えられる。

1 号溝は調査区の北西隅に位置し、調査区外に延びるため全体の平面形態は不明だが、少なくとも長さ 8m 以上の大型の溝である。深さ約 40cm 、断面形は逆台形を呈すると考えられる。また、調査区西側で確認された溝の立ち上がりから、東西方向に走る溝と考えられるが、東側でもゆるやかな立ち上がりがあり、おそらくこの部分は溝の屈曲部にあたると考えられる。溝の底面から拳大程度の円礫が集中して検出されて

おり、礫に混じって縄文土器、土師器、土師質土器、須恵器、陶器、磁器片等の遺物も検出されている。砂粒もみられることから水路として使用されていた可能性が高い。遺構の年代は中世の所産と考えられる。

2号溝は調査区北東隅に位置し、直線的な溝で両端は調査区外に延びる。1号竪穴に切られ、2号ピットを切る。長さ2m以上、幅約40~50cm、深さ約8cmを測る。遺物は縄文土器、土師器片が出土している。遺構の年代は平安時代の所産と考えられる。

1号土坑は調査区東側に位置し、1号竪穴を切る。平面は楕円形で、規模約1.5m×1.0m、深さ約24cmを測る。

1号ピットは調査区南西に位置し、西側は調査区外に延びる。平面は円形を呈し、規模約70×(50)cm以上、深さ約10cmを測る。遺物は、土師器小片が出土している。遺構の年代は平安時代の所産と考えられる。

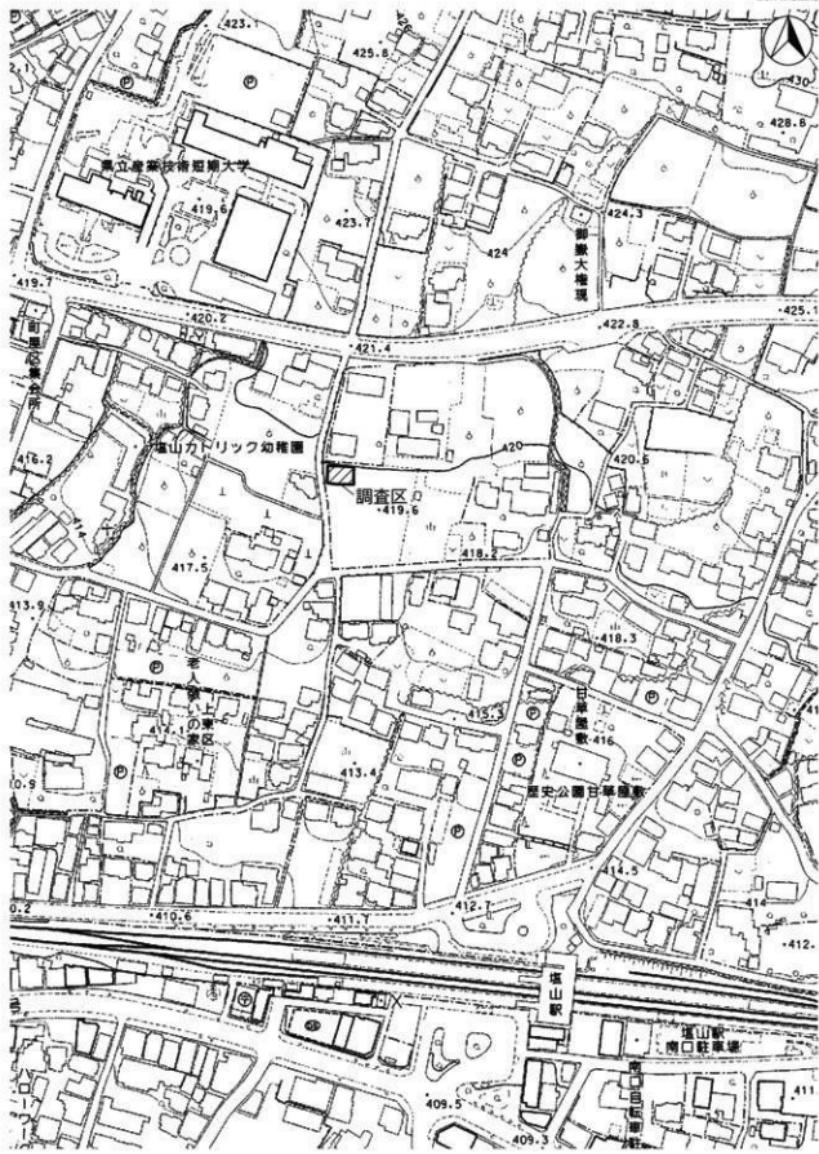
2号ピットは調査区北東隅に位置し、西側を2号溝に切られる。平面は楕円形を呈し、規模約30×(20)cm以上、深さ約18cmを測る。

3号ピットは調査区北東隅に位置し、東側は調査区外に延び、1号竪穴に切られる。平面形・規模不明、深さ約8cmを測る。

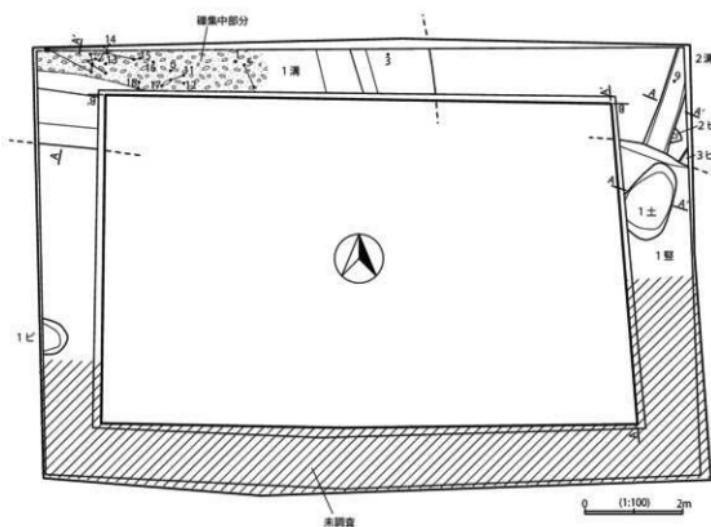
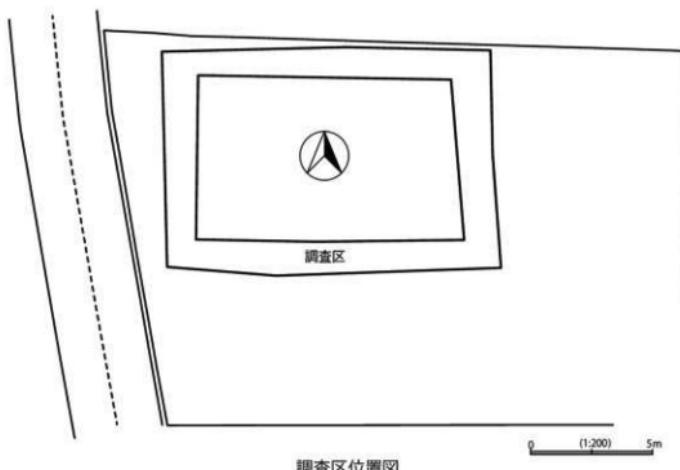
遺物はほぼ1号溝からのもので、18点を図示した。1・2・3・7は土師質皿（かわらけ）で、口径はいずれも10cm前後の小振りなものであり、中世段階のものと推定される。4・6・8・9は土師器杯で、体部下半にヘラケズリを残すもの（6）や玉縁口縁のもの（4・9）などから10世紀代前半・後半のものが混在している。5は緑釉陶器の皿である。10は土師器で口縁が一部、片口状にすぼまっていることから片口とした。11は瓦質土器の鉢。12は土師器の羽釜。13・14は瓦質土器の外耳鍋で、接点は無いものの同一個体とみられる。肩部の左右2ヶ所に火受けのための鈎があり、欠損しているが、上から吊るすための紐が火受けの上部に取り付けられていたものと推定される。甲州市勝沼町の勝沼氏館跡東郭出土遺物に類例がある。ロクロ成形で胴部下半にヘラケズリがある。鈎部は貼り付けである。詳細な時期は不明だが中世段階のものと推定される。15は須恵器で凸帶付四耳壺。

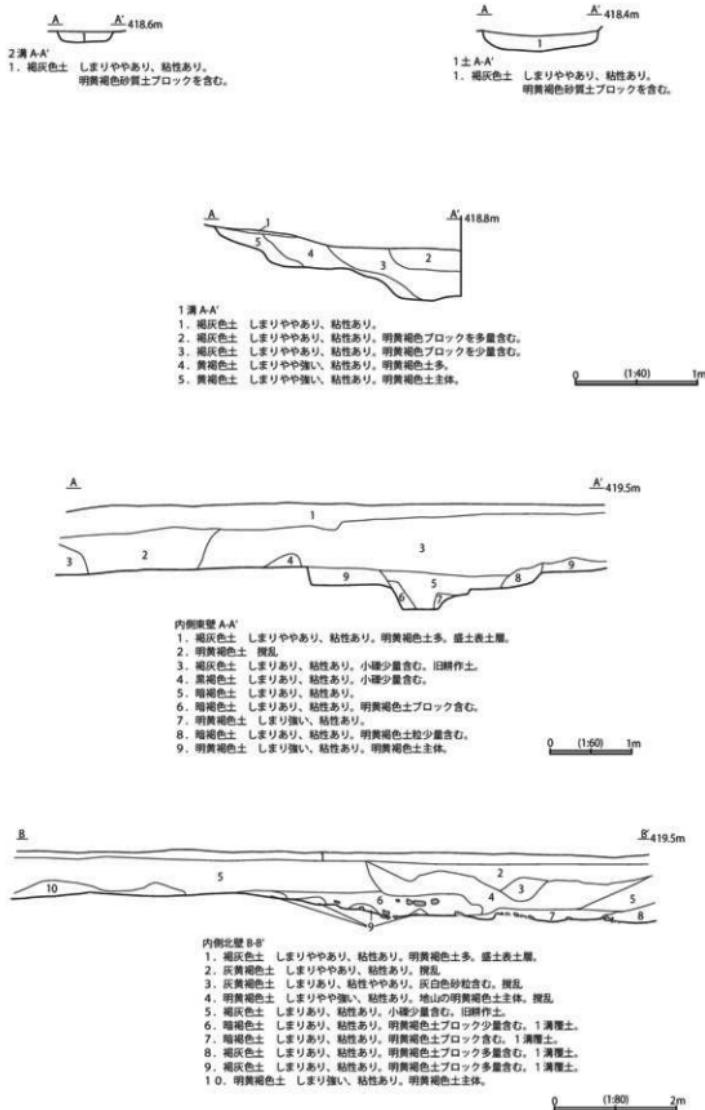
狭小な調査区ながら、遺構が密集した状態で検出された。これらの年代は、出土遺物から概ね平安～中世のものと考えられ、以前の調査でも同じ時代の遺構群が検出されており、同じ遺跡の範囲に収まるものと考えられる。

当地は平安時代には集落の一部であったが、中世段階では大型の溝（1号溝）を構築するなど、土地利用の変化があったことが窺える。1号溝の性格については部分的な検出ではあるが、中世の屋敷跡に関わる空堀の一部である可能性もあり、今後の検討課題の一つである。遺跡は、北側の隣地では、過去の試掘調査で遺構が確認されていないため、東西及び南側に展開するものと推定される。



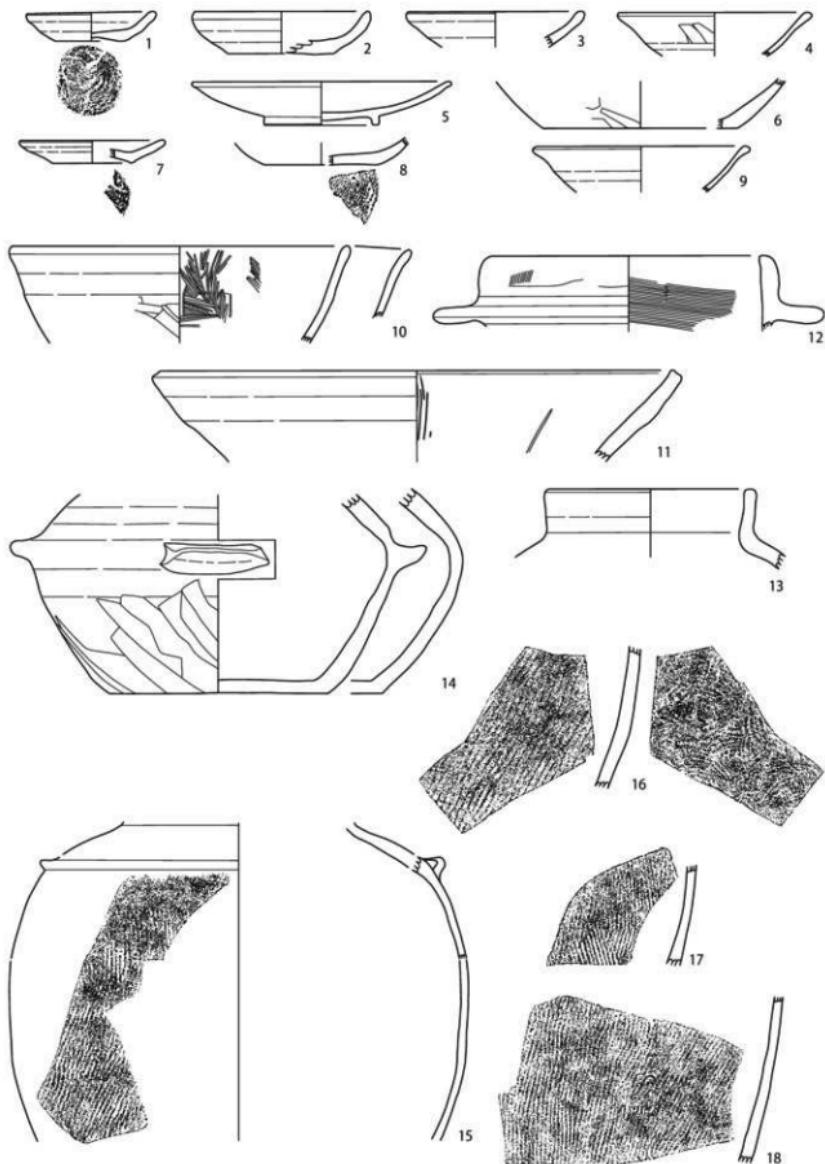
### 調査地点位置図





調査区壁面・遺構断面図

橢爪氏屋敷



遺物

橋爪氏屋敷遺物観察表

番号	地点	種別	基盤	口径	最高	底径	外面調整	内面調整	色調	胎土	残存率(%)	注記	備考
1	1溝	土師質	かわらけ	7.8	1.8	4.2	ナデ	ナデ	にじいろ 7SYR6/4	黒母、白・黒・赤色粒子	100	1Eゾ9	底部回転糾切
2	表揮	土師質	かわらけ	(10.7)	2.6	(8.6)	ナデ	ナデ	にじいろ 7SYR7/4	白・黒・赤色 粒子	30	表	
3	1溝	土師質	かわらけ	(10.8)	(2.2)	-	ナデ	ナデ	にじいろ 7SYR7/4	白・黒・赤色 粒子	15	1Eゾ1	
4	1溝	土師器	坪	(11.8)	(2.7)	-	ヘラケズリ、 ナデ	ナデ	明赤褐SYRS/6	白・黒・赤色 粒子	破片	1Eゾ一括	
5	1溝	猪目陶器	皿	(15.6)	2.7	-			オリーブ灰 10Y6/2		15	1Eゾ26.27	全面に輪
6	1溝	土師器	坪	-	(2.9)	(12.0)	ヘラケズリ、 ナデ	ナデ	(外)にじいろ SYR6/3、(内) 黒10YR2/1	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	1Eゾ31	
7	1溝	土師質	かわらけ	(8.8)	1.4	(4.8)	ナデ	ナデ	にじいろ 7SYR6/4	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	1Eゾ	底部回転糾切り痕
8	1溝	土師器	坪	-	(1.7)	(7.6)	ナデ	ナデ	(外)灰褐 7SYR6/2、(内) 褐7SYR6/6	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	1Eゾ	(外)全体が黒くなっている (内)赤くなっている部分あり (底部)回転糾切り痕
9	2溝	土師器	坪	(13.0)	(2.8)	-	ナデ	ナデ	(外)灰褐 SYR6/2、(内) 黒7SYR2/1	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	2Eゾ上面3	内面が黒くなっている
10	南西 サブトレンチ	土師器	片口鉢	(20.6)	(8.0)	-	ヘラケズリ、 ナデ	ナデ、ミガキ	(外)褐 SYR6/6、(内) 黒7SYR2/1	黒母、白・黒・ 赤色粒子、小 石	破片	南西サブ	(内)黒くなっている 口縁部外反面所あり一片 鉢か
11	1溝	瓦質土器	鉢	(31.6)	(5.6)	-	ナデ	ナデ、ミガキ	橙7SYR6/6	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	1Eゾ30.34	
12	1溝	土師器	羽釜	(16.8)	(4.3)	-	ナデ、横ハケ	ナデ、横ハケ	にじいろ SYR5/4	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	1Eゾ33	
13	1溝	瓦質土器	外瓦鍋	(12.6)	(4.2)	-	ナデ	ナデ	にじいろ 10YR6/3	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	1Eゾ17	14と同一か
14	1溝	瓦質土器	外瓦鍋	-	(12.3)	13.4	ナデ、 ヘラケズリ	ナデ	橙7SYR7/6	黒母、白・黒・ 赤色粒子	40	1Eゾ 10.11.14.20.21. 22.25.36	スス付崩、13と同一か
15	1溝	須恵器	凸輪付 四耳壺	-	(19.7)	-	タタキ	ナデ、指頭痕	(外)灰褐 10YR7/2、(内) 黄褐SYR5/1	白・黒色粒子	20	1Eゾ 4.13.18.19.23.2 8.37	
16	1溝	須恵器	壺	-	(8.5)	-	タタキ		(外)にじいろ 10YR7/2、 (内)灰褐 10YR6/2	白・黒色粒子	破片	1Eゾ25	
17	1溝	須恵器	壺	-	(8.2)	-	タタキ		(外)灰褐 SYR3/1、(内) 黄褐7SYR5/1	黒母、白・黒・ 赤色粒子	破片	1Eゾ8	
18	1溝	須恵器	壺	-	(10.2)	-	タタキ	指頭痕	(外)灰褐 SYR3/1、(内) 黄褐7SYR5/1	白・黒色粒子	破片	1Eゾ5.29	

櫛爪氏屋敷



調査前状況（東から）



表土掘削



1号ビット完掘（南から）



2号溝断面（南から）



1号土坑完掘（南東から）



1号溝跡検出状況（東から）



1号溝断面（東から）



1号溝跡上面出土遺物（土器）



1号溝縄下部出土遺物（青磁）



1号溝縄下部出土遺物（土器）



調査区内側東壁（北から）



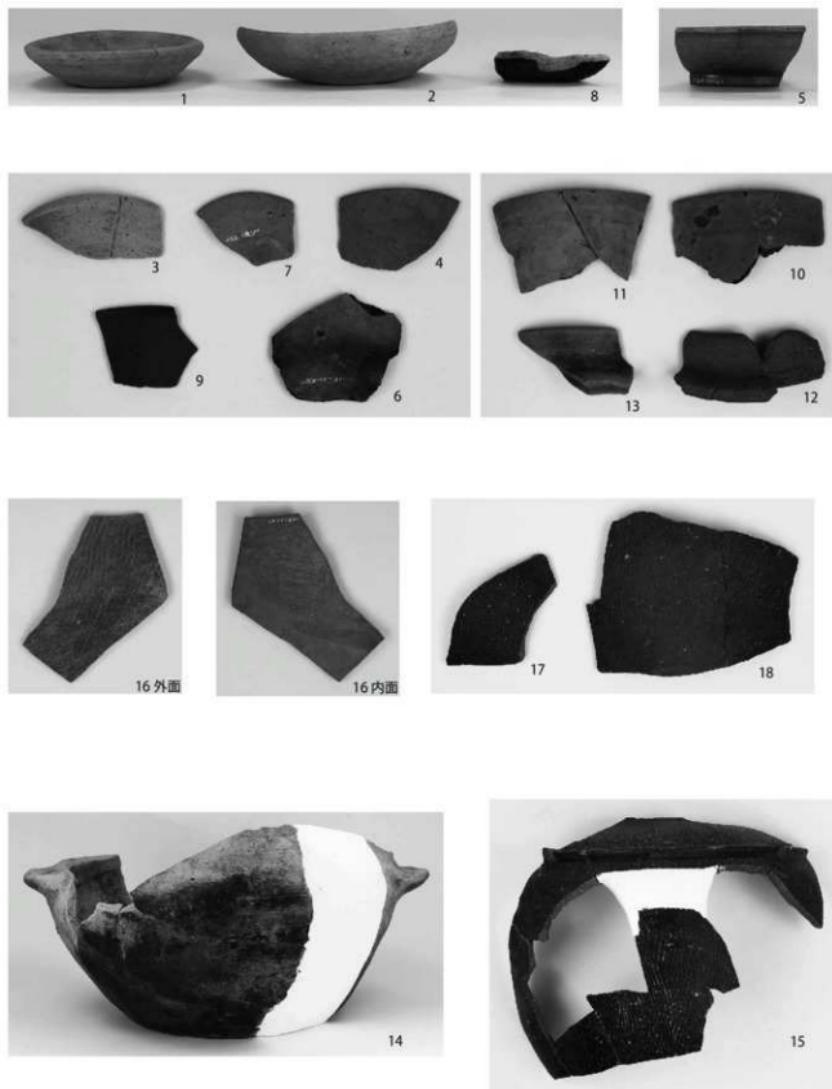
調査区内側東壁下層（東から）



調査区内側北壁（北西から）



調査風景



### 3 塚穴遺跡

(1) 所在地 甲州市勝沼町山 1682-1、1690、1689

(2) 調査面積 約 34.8m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 27 年 5 月 21 日～27 日

(4) 調査原因 道路建設

(5) 調査結果

当地は、源次郎岳山麓より発する譽櫛川右岸の河岸段丘上にあたり、埋蔵文化財包蔵地「塚穴遺跡」の範囲内にあたる。

道路建設が予定される敷地内に遺跡が存在するか確認するため、3 本のトレンチ（試掘坑）を設定し調査を行うこととした。

A トレンチは道路予定地内のうち、崖面に近い南側の段丘面上に、南北方向を長手にして約 8.4m × 約 1.5m で設定した。トレンチは南側から掘削を開始し、地表面から 30cm 挖り下げたところで、灰褐色の粘質土（A トレンチ断面図・3 層）を検出した。念のため地表下 60cm まで掘り下げてみたが、粘質土の堆積が続いていた。一応、この 3 層を遺構確認面として、北側を掘削してみたところ、地表から 30cm 挖り下げたところで、小礫を多く含む砂層（2 層）を検出した。この箇所も地表下 60cm まで掘り下げたが、砂層の堆積が続いている、河川の跡と考えられ、現地は東が高く西が低い傾斜地となっており、東から西へ流れた沢の痕跡と推定される。遺物は表土中から打製石斧を 1 点（4）検出している。

B トレンチは、3 ケ所設定したトレンチのうち中央に位置し、A トレンチの北側、C トレンチの南側に位置する。南北方向を長手にして約 9.7m × 約 1.5m で設定した。地表から約 90cm 挖り下げたところで、褐色の粘質土（B トレンチ断面図・3 層）を検出し、これを遺構確認面として精査を行ったが、遺構を検出することはできなかった。トレンチ中央部分の東西に走る溝状の落ち込みは、掘削したところ、樹木根痕であると判断された。遺物は縄文土器片 9 点を検出している。

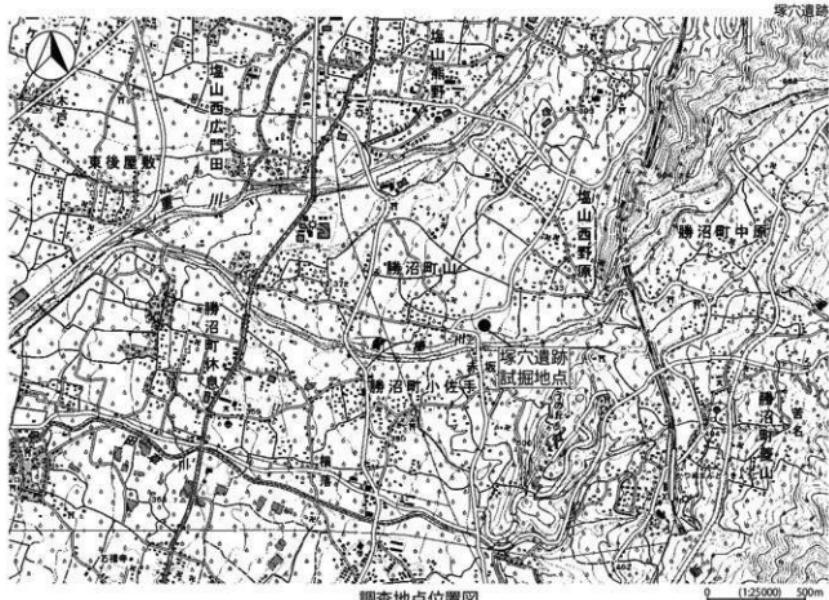
C トレンチは、B トレンチの北側に位置する。南北方向を長手として約 6.4m × 約 1.2m で設定した。トレンチ内北側で、地表下 90cm まで掘り下げたところで、褐色の粘質土（C トレンチ断面図・4 層）を検出し、この面で遺構確認を行った。この 4 層は B トレンチの 3 層に相当しており、B・C トレンチ間で、現地表から測って約 30cm、C トレンチの方が深くなっていることが分かった。現地表面は平坦な地形であるが、過去、北側への傾斜はより急なものであったことが窺える。トレンチ内南側で 4 層上面の検出を試みたところ、この北側への傾斜もあり、深いところでは地表下 1.2m まで掘り下げて、4 層上面が検出された。トレンチ中央から南側にかけて 4 層上面にしまりのやや強い暗褐色土（3 層）が堆積しており、この層から、縄文土器を主体とする遺物が多く検出された。ただ、遺構は検出されておらず、3 層には礫も多く含まれていることから、おそらく土石流のような流れ込みによって堆積したものと考えられる。遺物は縄文土器を主体とし、わずかに黒曜石などの石器を含んでおり、のビニール袋（30cm × 20cm）1 袋分を検出している。

また、表探資料として石皿（縄文時代）片が 1 点（6）得られた。

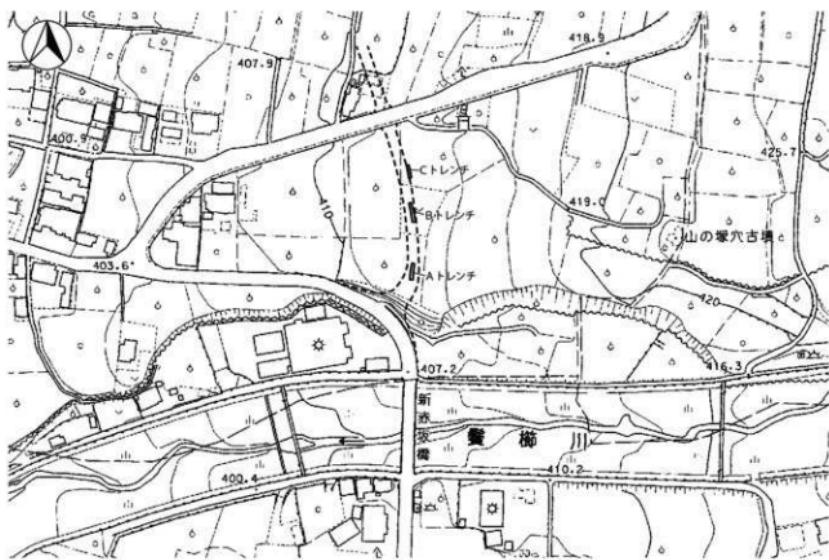
遺物は 6 点を図示した。1～3 は縄文土器で、縄文中期後半。4・5 は打製石斧、6 は脚付石皿で、調査

中に畑の耕作者から提供をうけたもので、調査地の付近から表採されたものである。

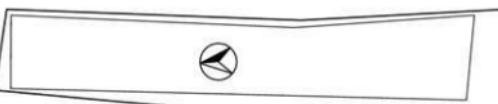
調査の結果、どのトレンチからも遺構を確認することが出来なかつたため、工事に該当する敷地内には遺跡が存在しないと考えられる。ただし、Cトレンチから検出された縄文土器や石器の出土量は、A・Bトレンチと比較して多く、遺物の分布に偏りがあると言わざるをえない。Cトレンチから検出された遺物は、落ち込んだ地形に疊とともに上方から流れ込んできたものと推定されるため、遺構と関連付けることは出来ないが、A・Bトレンチより、遺跡の本体（集落跡など）に接近した位置関係にあると考えられる。



調査地点位置図



調査区位置図



A

A No.29 桁



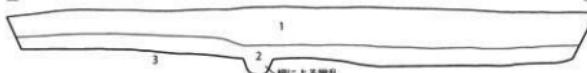
Aトレーニチ

1. 褐灰色土 表土層・耕作土。しまりややあり、粘性あり。小礫を微量含む。
2. 暗褐色土 しまり弱い、粘性弱い。小礫を多量含む。
3. 灰褐色粘質土 しまり強い、粘性あり。小礫を微量含む。



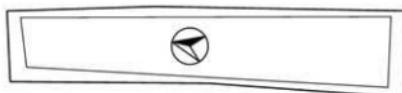
B

B No.29 桁



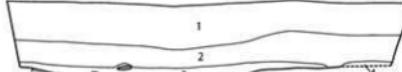
Bトレーニチ

1. 褐灰色土 表土層・耕作土。しまりややあり、粘性あり。小礫を微量含む。
2. 暗褐色土 旧耕作土か。しまりあり、粘性あり。
3. 褐色粘質土 地山。しまり強い、粘性強い。



C

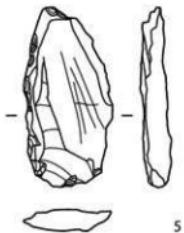
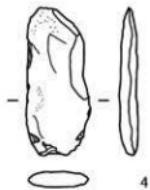
C No.29 桁



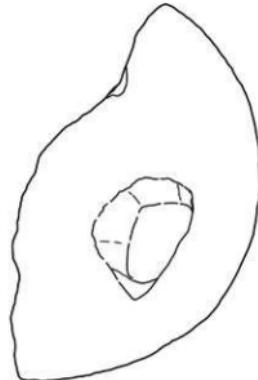
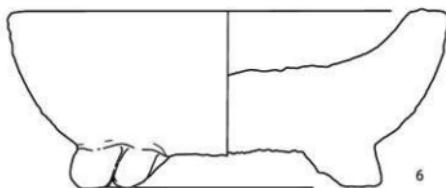
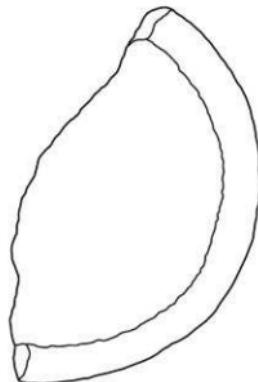
Cトレーニチ

1. 褐灰色土 表土層・耕作土。しまりややあり、粘性あり。小礫を微量含む。
2. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。小礫微量含む。
3. 暗褐色土 しまりやや強い、粘性やや強い。直径 10mm ~拳大の礫を含む。遺物包含層。
4. 褐色粘質土 地山。しまり強い、粘性強い。

A～C トレーニチ平断面図



4 + 5  
(1:3)  
0 10cm



遺物

0 (1:4) 10cm

塚穴遺跡遺物観察表（土器）

番号	地點	種別	断面	口沿	底面	底径	外周測量	内周測量	色調	胎土	残存率(%)	注記	備考
1	Cトレーナー	縹文	深鉢	-	(8.5)	-	四線文	ナデ	(外)褐 10YR4/4、(内) 赤褐色SYR4/6	露母、白・黒 色粒子	破片	Cトレ	
2	Cトレーナー	縹文	深鉢	-	(7.4)	-	ハの字文	ナデ	(外)青赤褐 SYR3/2、(内) 明赤褐色SYR5/6	露母、白・青 色粒子	破片	Cトレ	
3	Cトレーナー	縹文	深鉢	-	(7.5)	-	臺形沈縁、貼 り付け複縁	ナデ	(外)赤褐色 2.5YR4/6、(内) にGL4褐色 7.5YR5/4	露母、白・黒 色粒子	破片	Cトレ	

塚穴遺跡遺物観察表（石器）

番号	地點	種別	断面	長さ	幅	高さ(厚さ)	材質(胎土)	色調	残存率(%)	注記	備考
4	Aトレーナー	石器	打斧	9.1	3.8	1.0	凝灰岩	灰7.5YR6/1	100	Aトレ	
5	Cトレーナー	石器	打斧	11.0	5.4	1.5	ホルンフェルス	灰2.5YR7/6	100	Cトレ	
6	表揮	石器	石皿	(18.4)	(31.9)	14.5	玄武岩	灰10Y6/1	50	表	



作業風景



A トレンチ平面（北から）



A トレンチ断面（南西から）



B トレンチ平面（南から）



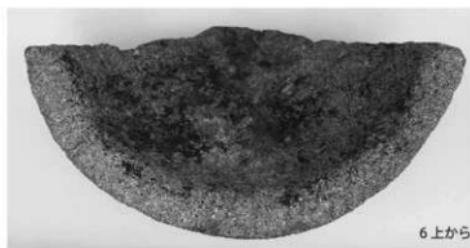
B トレンチ断面（北東から）



C トレンチ平面（北から）



C トレンチ断面（北西から）



6 上から



6 立面



6 下から

#### 4 塩山前遺跡

(1) 所在地 甲州市塩山上塩後 4

(2) 調査面積 約 13m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 27 年 7 月 22 日

(4) 調査原因 道路建設

(5) 調査結果

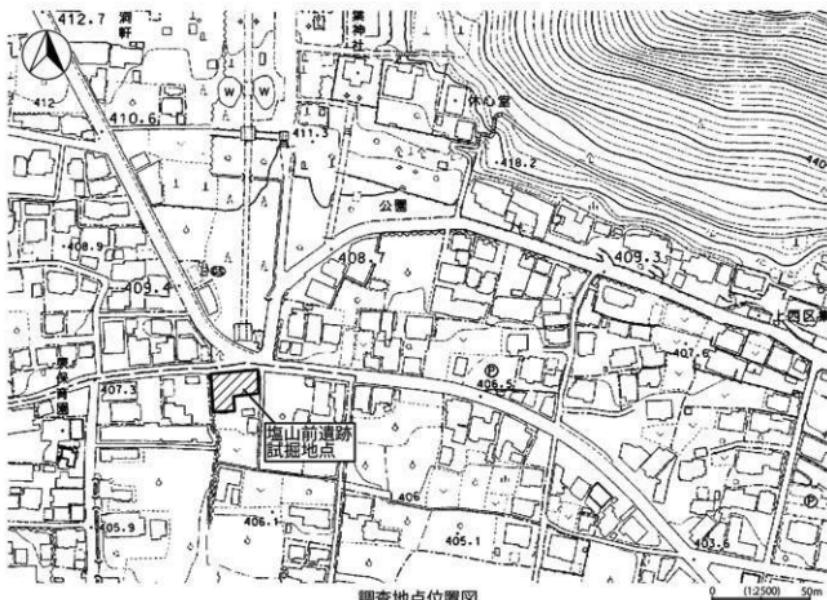
調査地点は、塩山の古刹である向嶽寺から県道 38 号線を挟んだ南側に位置する。当地は埋蔵文化財包蔵地「塩山前遺跡」に近接している。「都市計画道路 塩山西広門田線」(県道 38 号線) の道路拡幅工事に伴い、遺跡の存在を確認するため、試掘調査を実施することとなった。

A トレンチ（試掘坑）は約 9.6m × 1.3m で設定し、調査を行った。

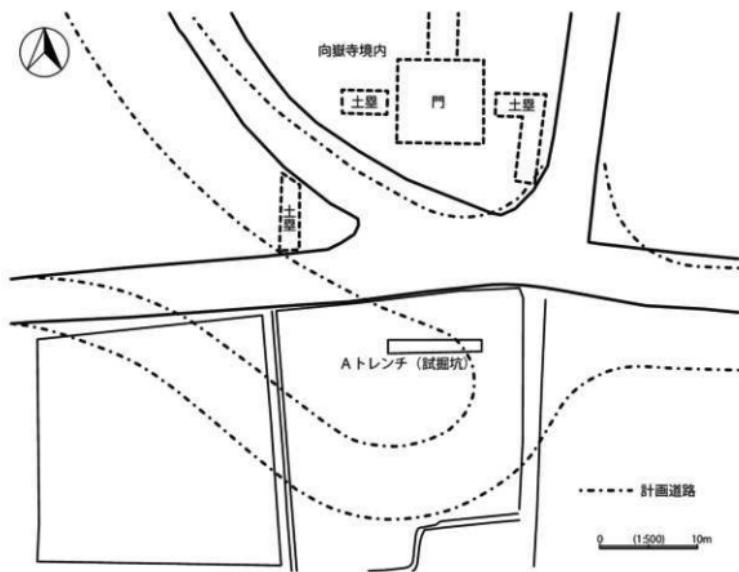
表土下約 30cm で、地山と考えられる明褐色土を検出したため、この面で遺構検出作業を実施したが、遺構は確認されなかった。遺物は近現代（明治時代以降）の陶磁器・瓦片などが表土下の炭化層および擾乱から検出された。また、トレンチの西側では明褐色土と同じレベルで礫層が検出され、その礫層を掘り下げた深掘部分では、地表下約 90cm で地下水が滲み出してきており、元々は水の流れた個所であったことが窺える。

調査の結果、本調査が必要とされるような遺構・遺物は検出されなかっただため、工事にかかる範囲内に遺跡は存在しないと考えられる。

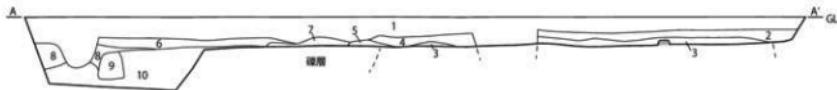
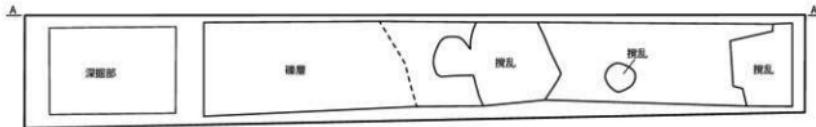
嵩山前源脉



### 調査地点位置図



### 調査区位置図



## A トレンチ

1. にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり。小礫少量含む。表土。
2. 黒褐色土 しまり強、粘性あり。炭化物を主体とする。焼土粒、近現代陶磁器、瓦片含む。整地層。
3. 明褐色土 しまり・粘性強。円錐微量含む。地山。
4. 褐灰色土 しまり・粘性あり。
5. にぶい黄褐色砂礫層 しまりあり、粘性ややあり。拳大の礫を主体とし、砂粒を含む。10層の一部。
6. 褐灰色土 しまり・粘性ややあり。炭化物、焼土粒微量含む。2層（整地層）の一部。
7. にぶい黄褐色 しまりやや強、粘性あり。
8. 明褐色土 しまり・粘性強。3層の一部。
9. 灰白色砂 しまり・粘性弱。粗粒砂を主体とする。風化礫か。
10. にぶい黄褐色砂礫層 しまりあり、粘性ややあり。拳大の礫を主体とし、砂粒を含む。トレンチ底部から湧水あり。

A トレンチ断面図

0 (150) 1m

塙山前遺跡



表土掘削



遺構確認状況（西から）



遺構検出状況（東から）



土層断面（南から）



深掘り部分（西から）



深掘り部分断面（南から）



疊層検出状況



搅乱

## 5 影井遺跡

- (1) 所在地 甲州市塙山下於曾 225-1
- (2) 調査面積 約 64m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 27 年 9 月 15 日～10 月 30 日
- (4) 調査原因 個人住宅建設のための確認調査
- (5) 調査結果

調査地点は、国道 411 号線沿いの重川右岸微高地上に立地する。当地は埋蔵文化財包蔵地「影井遺跡」の範囲に含まれており、当該敷地内の遺跡の有無を確認するため、試掘調査を実施することとした。

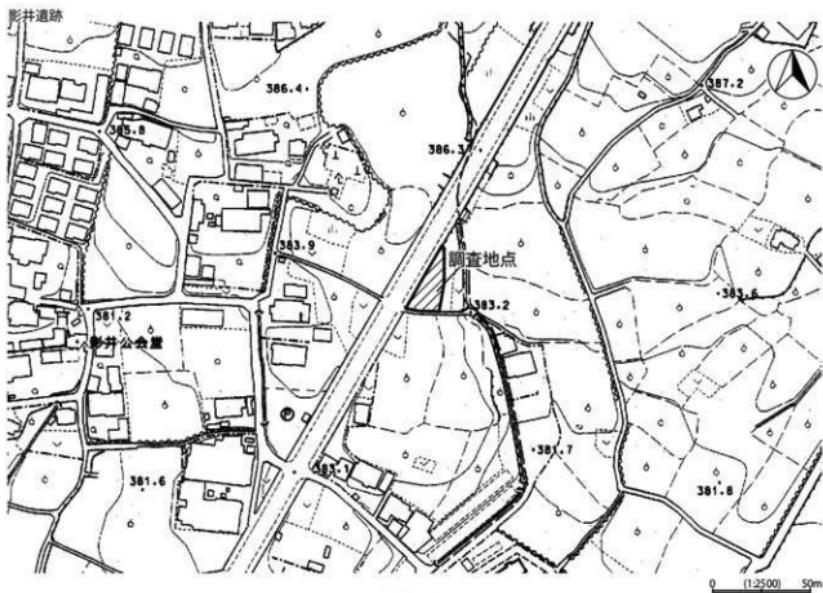
試掘トレンチは A・B の 2ヶ所を設定して調査を行った。

A トレンチは約 7.9 × 1.4m で設定し、地表から平均約 90cm 挖り下げた地点で、土器片が顕著にみられる土層を検出したため、この面で遺構確認を行った。その結果、直径約 1m の土坑 2 基、埋没谷とみられる遺物包含層を検出した。このため、A トレンチを約 10.5 × 5.3m まで拡張し調査を行った結果、埋没谷とした遺物包含層は縄文中期の竪穴住居で、土坑のうち 1 基は住居跡の柱穴であることが判明した。検出された竪穴は 1 軒（1 号竪穴）で調査区外まで延びるが、平面形は円形で直径は 5.2m 以上とみられる。中央付近に炉を配し、土器を炉体としている。新道式の深鉢を使用していることから縄文時代中期前半の住居と考えられる。また、炉を囲むように土坑やピットが 10 基ほど検出されている。調査の便宜上、平面規模が 1m 以上のものを土坑としたが、2・5 号土坑を除いて、他は柱穴と考えられる。

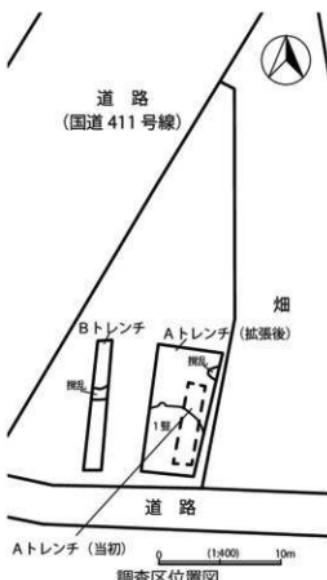
B トレンチは約 10.6 × 1.1m で設定し、地表から約 70cm まで掘り下げたところ地山と考えらえる暗黄褐色土層を検出したため、この面で遺構確認を行ったが遺構は検出されなかった。

遺物は縄文時代のものを主体とし、他に平安・近世等の遺物もみられ、43点を図示した。1～12は縄文土器で、縄文中期中葉のものが主体となっており、竪穴の年代とみられる新道式のものが多いが、藤内（8）、曾利（11）などの破片もみられる。1は炉に埋め込まれた状態で、炉体として使用されていた。13～15は浅鉢、16は深鉢口縁に付く装飾で蛇をモチーフにしたものと思われる。17～19はミニチュア土器、20～23は土製円板。24は土製耳飾。25は頭部・手足を欠損した土偶で、底部に一つ穴が開いている。腹部および股間部に膨らみを持った造形が表現されており、座産の姿を表した出産土偶と考えられる。26は土偶脚部。27～32は石鐵、黒曜石製。33～35、37～39は打製石斧。36は石匙。40は土師器壺、11世紀前半。41は土師器皿。42は灯明受皿で江戸時代。43は須恵器甕。

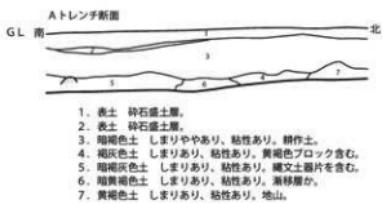
調査の結果、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡を 1 軒検出した。平安・近世の遺物もみられ、調査区周辺にも遺跡が展開しているものと判断される。



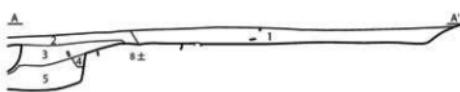
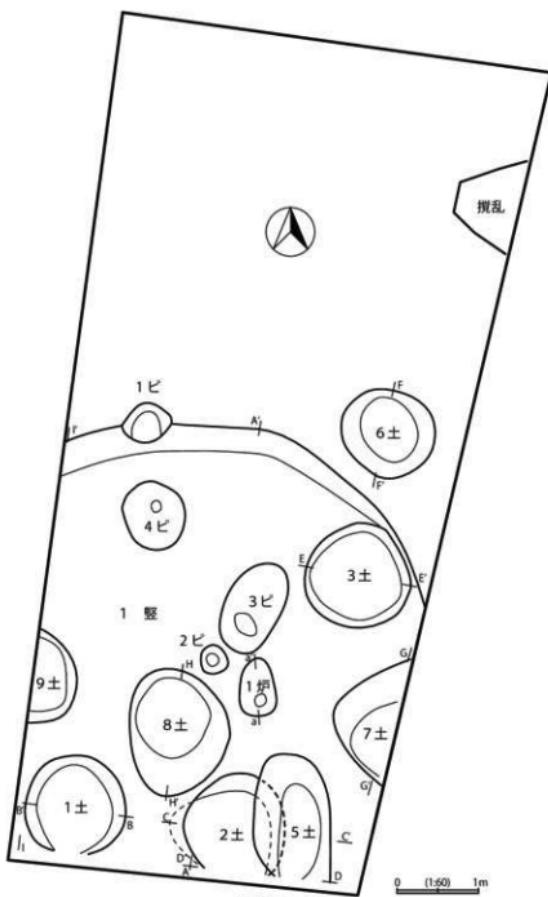
調査地点位置図



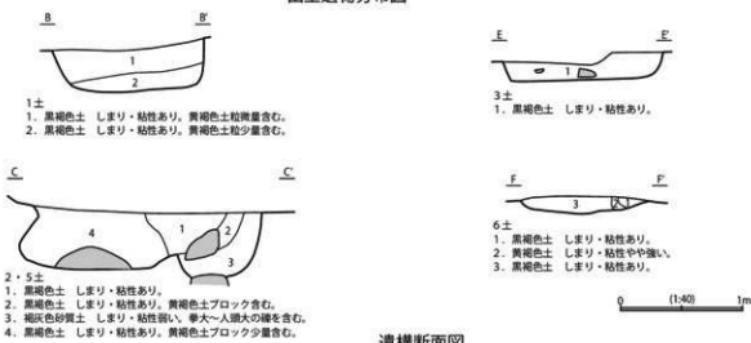
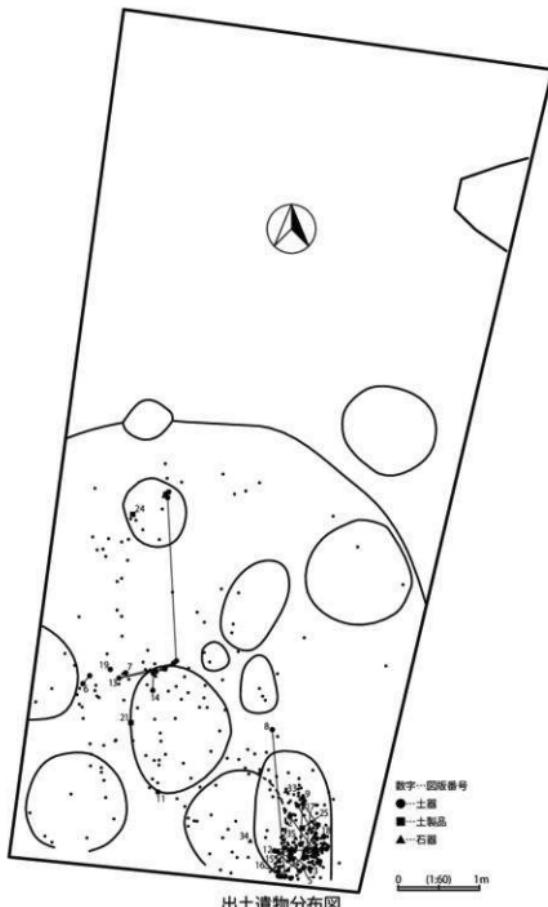
調査区位置図



A・B トレンチ断面図



遺構断面図

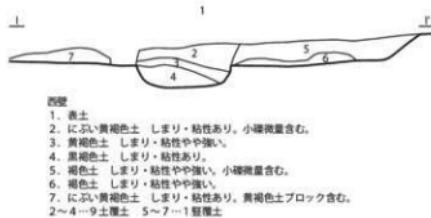


遺構断面図



- 2・5 土質壁  
 1. 黄褐色土 しまり。粘性強い。1整床面。  
 2. 黒褐色土 しまり。粘性あり。小礫微量含む。  
 3. 褐灰色土 しまり。粘性あり。黄褐色土粒少量含む。  
 4. 黄褐色土 しまり。粘性あり。黄褐色土粒含む。  
 5. 黒褐色土 しまり。粘性あり。黄褐色土粒微量含む。

璧面 (1:60) 1m



1. 表土
  2. にぶい 黄褐色土 しまり。粘性あり。小礫微量含む。
  3. 黄褐色土 しまり。粘性やや強。
  4. 黒褐色土 しまり。粘性あり。
  5. 褐色土 しまり。粘性やや強い。小礫微量含む。
  6. 褐色土 しまり。粘性やや強。
  7. にぶい 黄褐色土 しまり。粘性あり。黄褐色土ブロック含む。  
2~4~9土層 5~7~11 粘土層

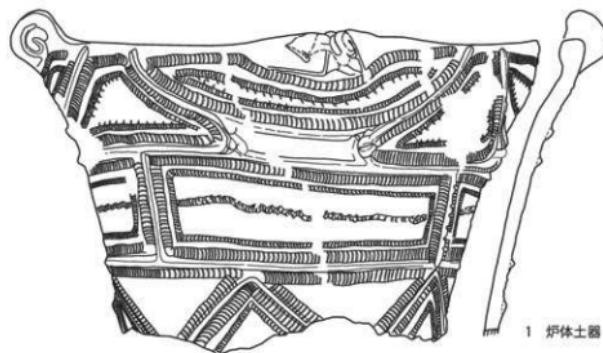


- 7 土  
1. 暗褐色土 しまり・粘性あり。  
2. 暗褐色土 しまり・粘性あり。黄褐色土粒微混含む。

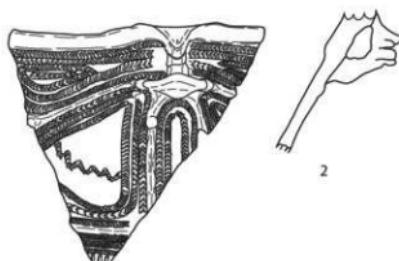


- 8 土  
 1. 黒褐色土 しまり・粘性あり。  
 2. 黒褐色土 しまり・粘性あり。黄褐色土ブロック少量化む。  
 3. 黒褐色土 しまり・粘性あり。素組色鉄微量含む。

7土・8土  
(1:40) 1m



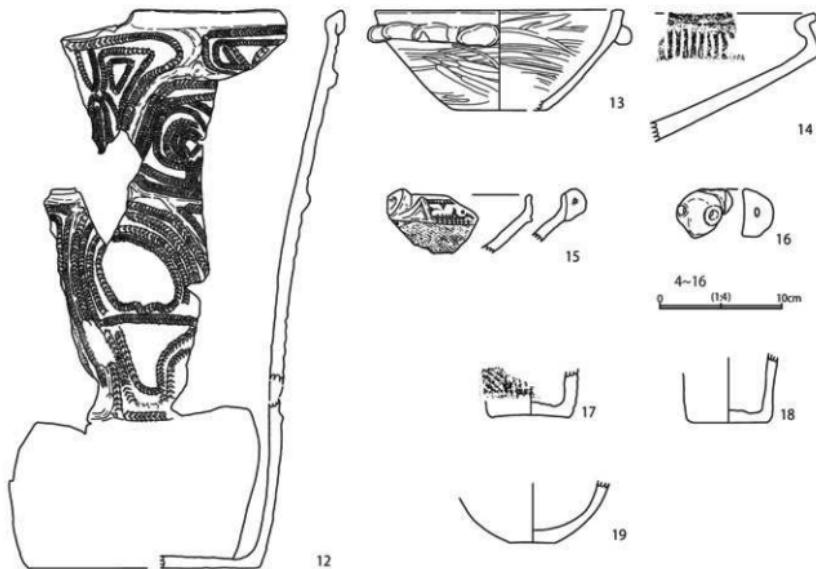
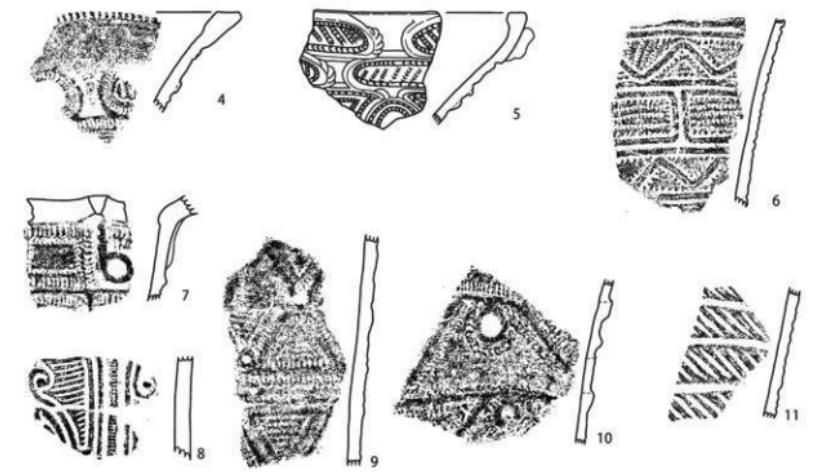
## 1 炉体土器



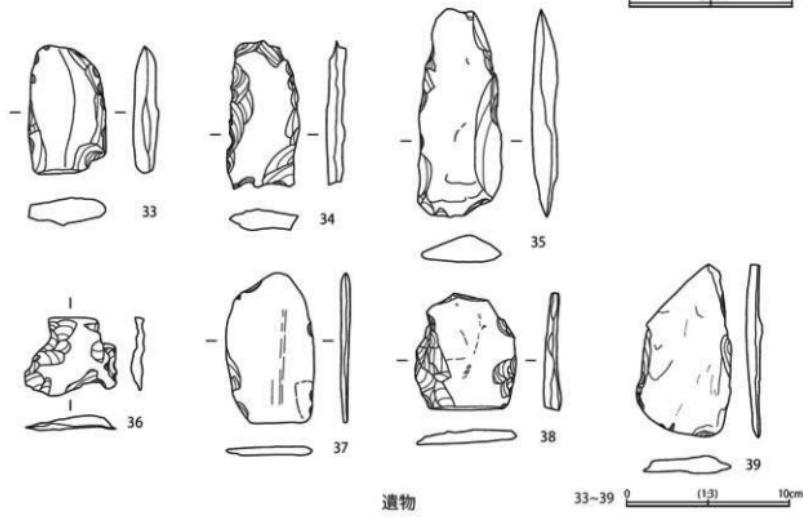
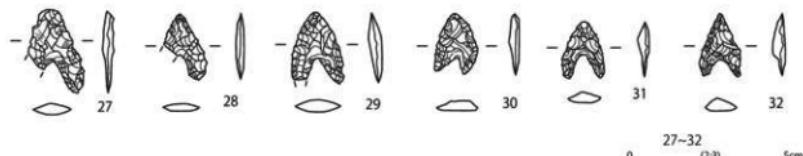
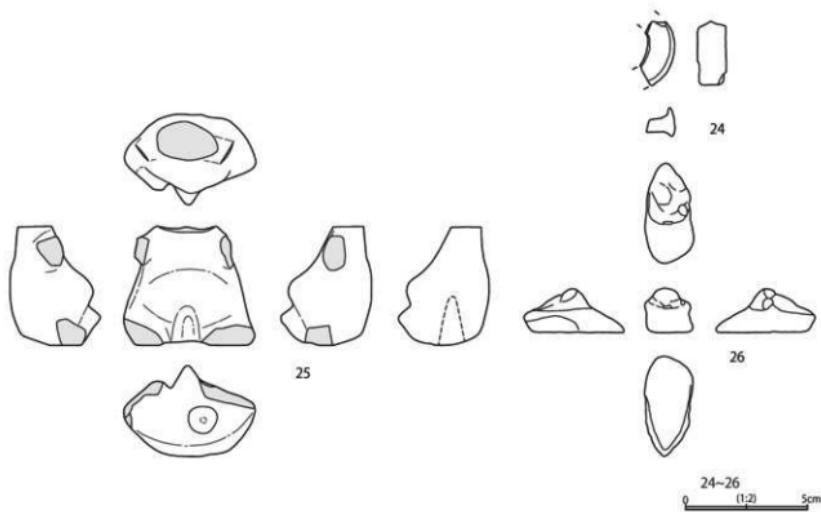
遺物

0 (1:4) 10cm

影井遺跡

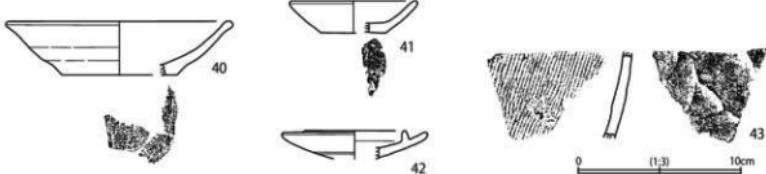


遺物



遺物

## 影井遺跡



影井遺跡遺物観察表（土器）

番号	出点	種別	直徑	口径	底面	高さ	外面装飾	内面装飾	色調	胎土	焼成率(%)	注記	備考
1	1号	縄文	深鉢	43.7	(26.5)	-	直脚文、三角 背文、帶文	ナデ	明赤褐 7.5YR5/6, (内) 7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子	50	15P	
2	1号	縄文	深鉢	-	(11.7)	-	三角押文		明赤褐 7.5YR5/6	黒母多め、 白・赤色粒 子、石英	破片	5±218.345, 試 38	内面スラスト
3	1号	縄文	深鉢	-	(26.2)	-	三角押文		(外) 明赤褐 7.5YR5/6, (内) 7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子、石英	破片	5±130.137, 5 土一括	
4	表層	縄文	深鉢	-	(8.2)	-	直脚文、口縁 に刻文		(外) 明赤褐 7.5YR5/6, (内) 7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子	破片	カゲ	外面口部黒くなっている 内面底部に未貫通の孔 一ヶ所
5	1号	縄文	深鉢	-	(8.2)	-	横円形圧痕 文、三角押文		明赤褐 7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子	破片	5±201	
6	1号	縄文	深鉢	-	(15.4)	-	直脚文、三角 押文		(外) 明赤褐 7.5YR5/6, (内) 7.5YR5/6	黒母、白・赤 色粒子	破片	1住上層5.6	内外面一部黒くなっている
7	1号	縄文	深鉢	-	(8.5)	-	直脚文		明赤褐7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子	破片	1住上層3.7	
8	1号	縄文	深鉢	-	(8.5)	-	沈縫		にぶい黄褐 7.5YR5/4	黒母、白・黒 色粒子	破片	5±309.367	
9	1号	縄文	深鉢	-	(18.6)	-	直脚文、三角 押文		明赤褐7.5YR5/6	黒母、石英、 白・黒・赤色 粒子	破片	5±163.222.252	摩耗
10	1号	縄文	深鉢	-	(13.4)	-	直脚文、三角 押文		明赤褐7.5YR5/6	黒母、石英、 白・黒色粒子	破片	5±	
11	1号	縄文	深鉢	-	(10.4)	-	沈縫		(外) にぶい黄褐 7.5YR5/4, (内) 7.5YR5/4	黒母、白・黒 色粒子	破片	1住上層3.3	抜けた痕、黒・赤いところ あり
12	1号	縄文	深鉢	-	46.0	(18.0)	三角押文		明赤褐7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子、石英	30	2± 57.6±127.138.1 53, 土 167.214.231.23 64.6±46.42 56.263.361.182. 363	所々にコゲ痕
13	1号	縄文	浅鉢	26.0	8.2	(7.8)	立ガキ、横円形 點付文	立ガキ	にぶい黄褐 7.5YR5/4	黒母、白・黒 色粒子	60	1住 296.295.309.31 6.336.337.339	内外面少し黒くなっている 部分あり
14	1号	縄文	浅鉢	-	(10.6)	-	沈縫		赤褐2.5YR4/6	黒母、白・赤 色粒子	破片	1住 296.310.319.8	内外面一部黒くなっている ±326
15	1号	縄文	浅鉢	-	(4.6)	-	沈縫、施縫刻 目、縫火		黒褐2.5YR1/1	白・黒・赤 色粒子	破片	5±179	
16	1号	縄文	-	-	(3.6)	-	-	-	明赤褐7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子	5±192	深鉢把手部分	
17	1号	縄文	ミニチュア	-	(3.0)	4.6	縄文		にぶい黄褐 7.5YR5/4	石英、白・黒 色粒子	破片	2±62	外面コゲ
18	1号	縄文	ミニチュア	-	(4.0)	4.7	輪縫痕		(外) 明赤褐 7.5YR5/6, (内) 7.5YR5/4	黒母、白・黒 色粒子	50	5±208	内外面一部黒くなっている
19	1号	縄文	ミニチュア	-	(3.7)	2.8	縄文		(外) 黒褐 7.5YR4/2, (内) 7.5YR5/2	黒母、白・黒 色粒子	70	1住323	
40	日トレン チ	土師器	坪	(14.0)	3.3	(7.0)	ナデ	ナデ	明赤褐 7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子	25	日トレン	内面黒くなっている 底部凹凸糸痕
41	桂乳	土師器	壺	(8.0)	2.5	(4.0)	ナデ	ナデ	明赤褐 7.5YR5/6	黒母、白・黒 色粒子	破片	カクラン	底部凹凸糸痕
42	Aトレン チ	陶器	灯明受皿	(9.0)	(1.6)	-	ナデ	ナデ	明赤褐 7.5YR5/3	白・赤色粒子	20	試Aトレン	透明釉
43	Bトレン チ	漆器	壺	-	(3.2)	-	タキ		(外) 反白 10YR7.2, (内) にぶい黄褐 10YR7.24	白・黒色粒子	破片	日トレン	

影井遺跡遺物觀察表（土製品・石器）

番号	地點	種別	圖様	長さ	幅	高さ(厚さ)	材質(胎土)	色調	残存率(%)	注記	備考
20	試掘	土製品	土製円盤	4.8	4.6	1.4	黒母、白・赤色粒子	赤褐色SYR4/6、 にぶい赤褐色SYR5/4	100	試42	
21	1堅	土製品	土製円盤	3.9	3.5	0.9	黒母、白・黑色粒子	灰褐色SYR4/2	100	1往298	
22	1堅	土製品	土製円盤	3.1	2.9	1.4	黒母、白・黒・ 赤色粒子	にぶい赤褐色SYR4/4	100	5土	
23	1堅	土製品	土製円盤	3.0	3.2	1.7	黒母、白・黒・ 赤色粒子	赤褐色SYR4/6	100	5土	
24	1堅	土製品	耳飾	(2.6)	—	1.2	白・黒・赤色粒子	赤褐色SYR4/6	20	1往344	
25	1堅	土製品	土偶	4.9	5.4	3.7	黒母、白・黒・ 赤色粒子	赤褐色SYR4/6	70	106	
26	1堅	土製品	土偶？	(1.8)	—	4.1	黒母、白・黒・ 赤色粒子	赤褐色SYR4/6	破片	5土	土偶の脚部か
27	2土	石器	石鎚	2.5	1.8	0.35	黒曜石	透黒	75	2土	
28	2土	石器	石鎚	2.0	1.3	0.25	黒曜石	透黒	75	2土	
29	5土	石器	石鎚	2.1	1.6	0.4	黒曜石	透黒	90	5土	
30	5土	石器	石鎚	1.9	1.3	0.3	黒曜石	透黒	100	5土	
31	試掘Aトレンチ	石器	石鎚	1.8	1.3	0.35	黒曜石	黒	100	試40	
32	5土	石器	石鎚	1.9	1.3	0.4	黒曜石	透黒	100	360	
33	1堅	石器	打斧	(7.8)	4.7	1.5	ホルンフェルス	灰オリーブ SY6/2	60	5土366	
34	1堅	石器	打斧	(8.9)	4.2	1.1	硬砂岩	灰SY5/1	80	1往上層46	
35	1堅	石器	打斧	(12.6)	4.9	1.5	凝灰岩	灰黄2SY6/2	100	5土164	
36	1堅	石器	石鎚	4.5	5.1	0.9	凝灰岩	にぶい青 7SYR5/4	100	5土	
37	1堅	石器	打斧	9.3	5.3	0.5	凝灰岩	黄灰2.5YR6/1	100	5土	
38	試掘Aトレンチ	石器	打斧	7.1	6.1	0.7	凝灰岩	灰N6/	100	試Aトレンチ	
39	1堅	石器	打斧	(9.5)	5.4	0.8	凝灰岩	灰7.5YR6/1	75	5土	

影井遺跡



調査風景 (Aトレーニチ)



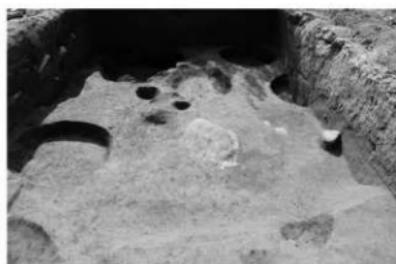
1竪遺物出土状況



1竪埋甕炉 (東から)



5土遺物出土状況 (北から)



1竪完掘 (北から)



Bトレーニチ土層断面 (南東から)



Bトレーニチ遺構確認面 (南から)



13



14



15



16



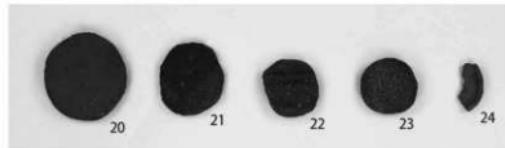
17



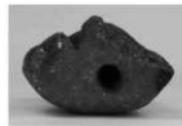
18



19

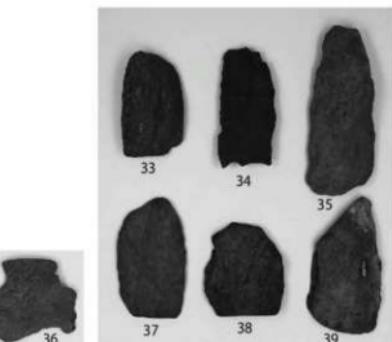
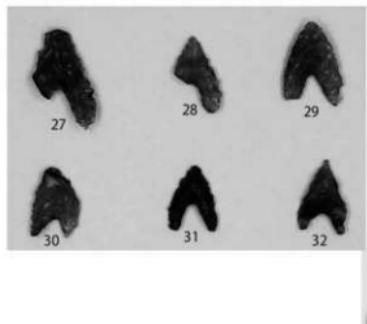


25





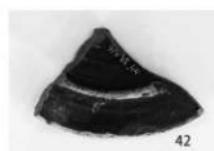
26



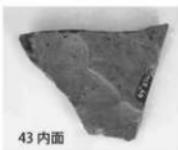
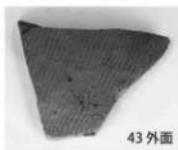
40



41



42



## 6 千手院前遺跡

(1) 所在地 甲州市塩山上塩後字稻荷林 729 外 5 筆

(2) 調査面積 約 229m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 27 年 10 月 21 日～23 日

(4) 調査原因 宅地造成

(5) 調査結果

調査地点は、塩山の市街地を南流する塩川と、山梨市を南流する笛吹川との間に位置し、南側がわずかに低くなる微傾斜地形となっている。当地は埋蔵文化財包蔵地「千手院前遺跡」の範囲に含まれており、開発計画範囲内における遺跡の有無を確認するため、試掘調査を実施することとなった。

試掘トレンチは A～H の 8ヶ所を設定して調査を行った。

A トレンチは約 17.5 × 1.7m で設定し、地表から約 50cm でしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認作業を行ったが、遺構は無く、現代の搅乱のみ検出した。

B トレンチは約 9.7 × 1.6m で設定し、地表から約 30cm 堀り下げたところでコンクリート片など現代のゴミを含む大規模な搅乱層を検出した。搅乱層の主体は礫で、近接地点で地表下 1.4m まで堀り下げたが、搅乱はそれより下にまだ続いていることが分かった。

C トレンチは約 10.2 × 1.5m で設定し、地表から 30～40cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。なお、西側は一部 B トレンチで確認した搅乱の延長部分がみられた。

D トレンチ 約 9.5 × 1.8m で設定し、地表から約 40cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。

E トレンチ 約 18.4 × 1.5m で設定し、地表から約 40～50cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったところ、溝状遺構 1、ピット（小穴）1 を検出した。遺物は繩文土器片を確認している。

F トレンチ 約 18 × 1.4m で設定し、地表から約 50cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。

G トレンチ 約 11.7 × 1.4m で設定し、地表から約 40cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。

H トレンチ 約 10 × 1.4m で設定し、地表から約 30cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。

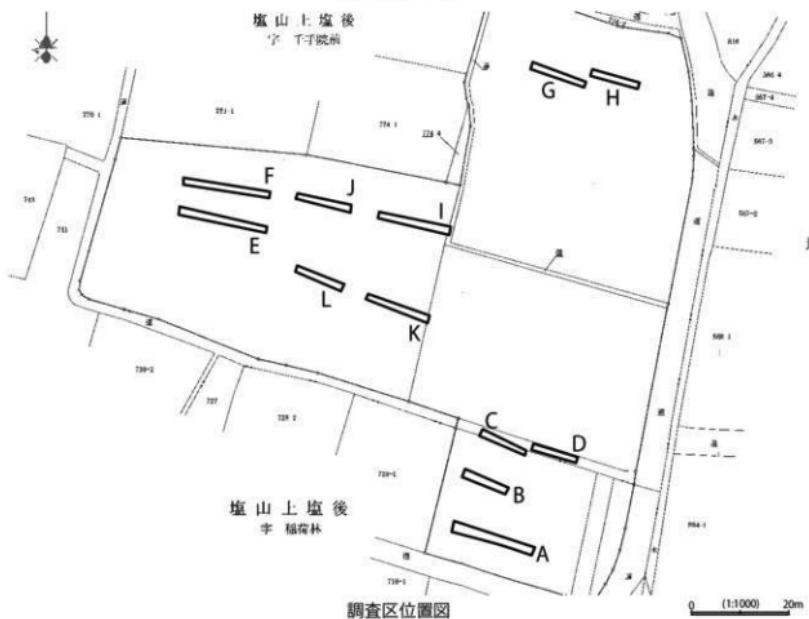
I トレンチ 約 15 × 1.8m で設定し、地表から約 20～30cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。

J トレンチ 約 11.5 × 1.6m で設定し、地表から約 30cm 堀り下げたところでしまりのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。また部分的にトレンチ東端で礫層が検出された。

K レンチ 約 13.5 × 1.6m で設定し、地表から約 20 ~ 30cm 剥り下げるところでありのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。

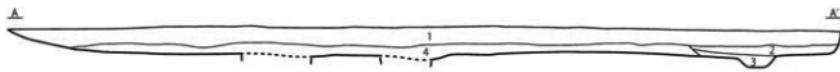
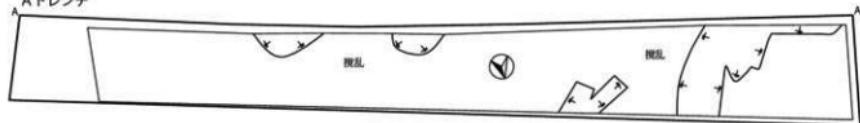
L レンチ 約 10.1 × 1.6m で設定し、地表から約 20 ~ 30cm 剥り下げるところでありのある明褐色土層を検出した。この面で遺構確認を行ったが、遺構は確認されなかった。

調査の結果、E レンチから縄文時代のものと考えられる遺構・遺物が検出されており、開発が E レンチ付近に及ぶ場合には本調査を行う必要がある。



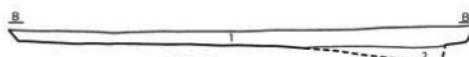
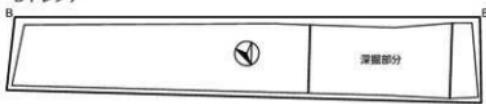
千手院前遺跡

Aトレンチ



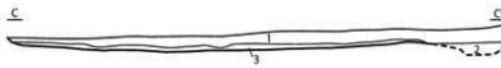
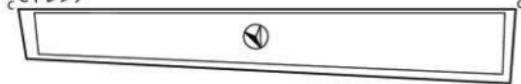
- Aトレンチ  
1. 褐灰色土 表土  
2. 褐灰褐色土 搪亂  
3. 褐灰褐色土 搪亂  
4. 暗褐色土

Bトレンチ



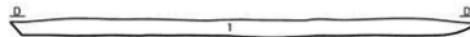
- Bトレンチ  
1. 褐灰色土 表土  
2. 明灰褐色砂礫 搪亂

Cトレンチ



- Cトレンチ  
1. 褐灰色土 表土  
2. 明灰褐色砂礫 搪亂  
3. 暗褐色土

Dトレンチ



- Dトレンチ  
1. 褐灰色土 表土

A・B・C・Dトレンチ平断面図

0 (1:100) 2m

Eトレンチ



溝状遺構

ビット(小穴)



E

E'

2

1

3

溝

- Eトレンチ  
 1. 褐灰色土 表土  
 2. 暗褐色土  
 3. 黒褐色土 遺物包含層

Fトレンチ



F

F'

2

3

- Fトレンチ  
 1. 褐灰色土 表土  
 2. 暗褐色土  
 3. 明褐色土 地山

Gトレンチ

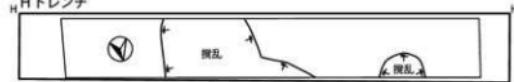


G

G'

- Gトレンチ  
 1. 褐灰色土 表土  
 2. 暗褐色土  
 3. 明褐色土 地山

Hトレンチ



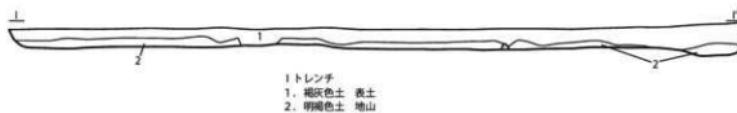
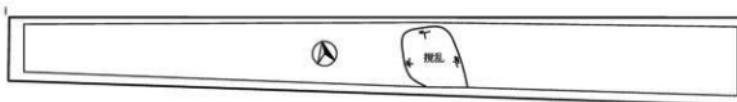
H

H'

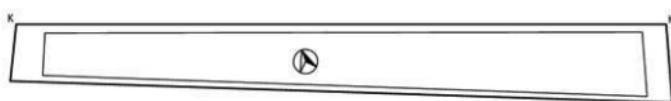
- Hトレンチ  
 1. 褐灰色土 表土  
 2. 暗褐色土  
 3. 明褐色土 地山

E・F・G・Hトレンチ平断面図

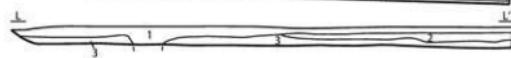
千手院前遺跡



- J トレンチ  
1. 褐灰色土 表土  
2. 明褐色土  
3. 明褐色土 明褐色土ブロック含む  
4. 明灰色土 壴大～人頭大の礫を主体とする  
5. 明褐色土



- K トレンチ  
1. 褐灰色土 表土  
2. 明褐色土 地山



- L トレンチ  
1. 褐灰色土 表土  
2. 褐灰色土 明褐色土含む  
3. 明褐色土 地山

I・J・K・L トレンチ平断面図

0 (1:100) 2m



A トレンチ精査状況（西から）



A トレンチ土層断面（北東から）



B トレンチ精査状況（西から）



B トレンチ土層断面（北から）



C トレンチ精査状況（西から）



C トレンチ土層断面（北西から）



D トレンチ精査状況（西から）



D トレンチ土層断面（南西から）

千手院前遺跡



E レンチ精査状況（東から）



E レンチ土層断面（北西から）



F レンチ精査状況（西から）



F レンチ土層断面（北西から）



G レンチ精査状況（西から）



G レンチ土層断面（北西から）



H レンチ精査状況（東から）



H レンチ土層断面（北東から）



I トレンチ精査状況（西から）



I トレンチ土層断面（南西から）



J トレンチ精査状況（西から）



J トレンチ土層断面（南東から）



K トレンチ精査状況（西から）



K トレンチ土層断面（南西から）



L トレンチ精査状況（西から）



L トレンチ土層断面（南西から）

## 7 横井・大木戸遺跡

(1) 所在地 甲州市塩山熊野字角田 634 番 1

(2) 調査面積 約 55.3m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 27 年 11 月 4 日

(4) 調査原因 集合住宅

(5) 調査結果

調査地点は、塩山熊野の重川右岸に位置する。当地は埋蔵文化財包蔵地「横井・大木戸遺跡」の範囲に含まれており、南東に約 100m の地点に平安時代の集落跡である五反田遺跡が存在している。集合住宅建設工事の計画範囲内における遺跡の有無を確認するため、試掘調査を実施することとした。

試掘トレンチは A～C の 3ヶ所を設定して調査を行った。

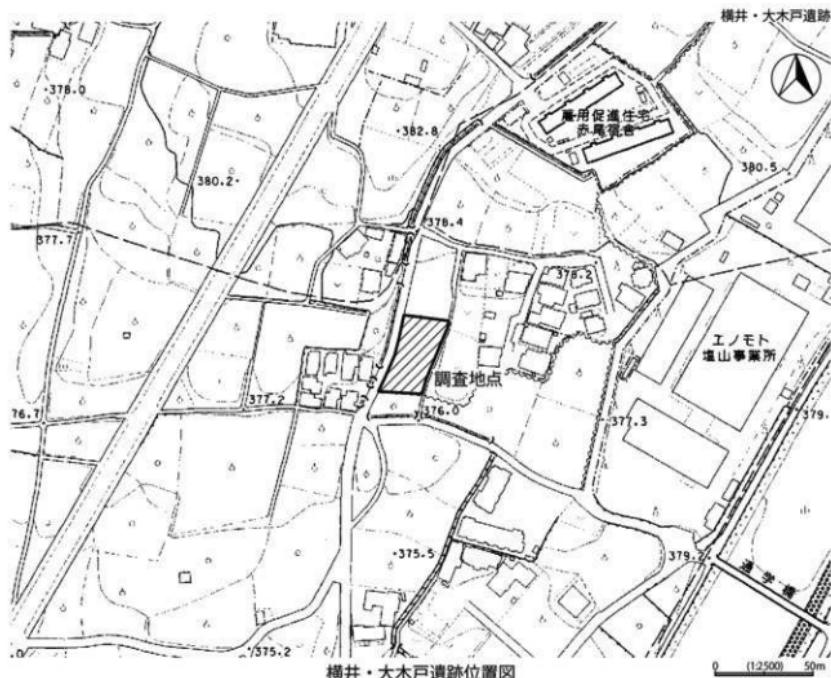
A トレンチ 約 15.7 × 1.3m で設定し、地表から約 80cm、一部 1.1 m まで掘削を行った。表土の下は砂層と砂質土層が互層状に堆積しており、第 12 層中から土器片等の遺物を検出したため遺構確認作業を行ったが、遺構は検出されなかった。

B トレンチ 約 11.5 × 1.3m で設定し、地表から約 1m まで掘削を行った。A トレンチと同様に表土下は砂層と砂質土層の互層状堆積がみられ、遺構は検出されなかった。

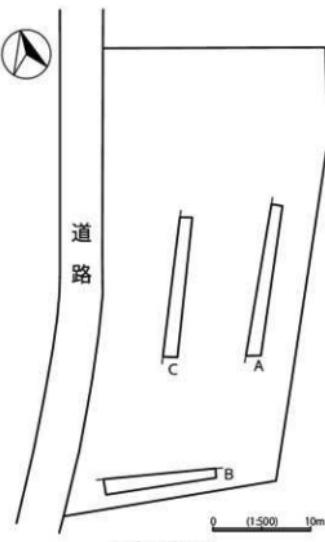
C トレンチ 約 14.3 × 1.3m で設定し、地表から約 80cm、一部 1.4m まで掘削を行った。17 層下は砂礫層となっており、これより下に遺構面は無いと判断し、遺物が検出された 10 層付近で遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。土層は A・B トレンチ同様に砂層と砂質土層の互層状堆積がみられた。

調査の結果、表土の下は砂層と砂質土層の互層状堆積となっており、当地がかつて重川の氾濫範囲に含まれていたことを物語っている。A トレンチ 12 層、C トレンチ 10 層には平安時代の遺物と考えられる土師器片、須恵器片が含まれており、五反田遺跡（ナフコ地点）との関わりが想定される。ただ、これらの遺物は摩耗が著しいため、重川の氾濫等によって流れ込んだ遺物と考えられる。

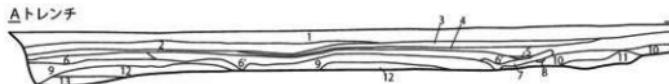
このような調査成果から、今回の調査地点には遺跡は存在しないと判断される。



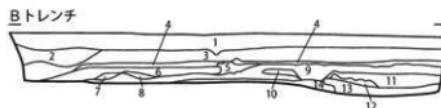
横井・大木戸遺跡位置図



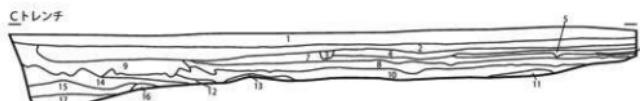
調査区位置図



- Aトレンチ
- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1. 深黄褐色砂質土 表土        | 7. 黒灰色砂 砂層       |
| 2. 灰白色砂 砂層           | 8. 黒褐色砂質土        |
| 3. 褐灰色砂 砂層           | 9. 黑褐色砂質土        |
| 4. 褐灰色砂質土 酸化鉄少量含む    | 10. 黑褐色砂質土       |
| 5. 褐灰色砂質土            | 11. 灰白色砂 若干黄色に近い |
| 6. 褐灰色砂質土 酸化鉄含む      | 12. 黑褐色砂 砂層      |
| 6' 灰白色砂 酸化鉄を層状に含む 砂層 | 13. 灰白色砂 砂層      |



- Bトレンチ
- |               |                        |
|---------------|------------------------|
| 1. 深黄褐色砂質土 表土 | 8. 灰白色砂 砂層             |
| 2. 黒褐色砂質土     | 9. 灰白色砂 砂層             |
| 3. 灰白色砂 砂層    | 10. 黑褐色砂質土             |
| 4. 褐灰色砂質土     | 11. 灰白色砂 黒褐色砂質土ブロックを含む |
| 5. 褐灰色砂 砂層    | 12. 灰白色砂 砂層            |
| 6. 褐灰色砂質土     | 13. 灰白色 砂層 12層より粒子が細かい |
| 7. 灰白色砂 砂層    | 14. 黑褐色砂質土 灰白色砂含む      |



- Cトレンチ
- |               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 1. 深黄褐色砂質土 表土 | 9. 灰白色砂 砂層                   |
| 2. 黒褐色砂 砂層    | 10. 黑褐色砂質土 摩耗した土器器・須恵器片を少量含む |
| 3. 灰白色砂 ブロック  | 11. 黑褐色砂 砂層 層内に細かい瓦層堆積がみられる  |
| 4. 褐灰色砂 粒子細かい | 12. 灰白色砂 砂層 酸化鉄含む            |
| 5. 褐灰色砂 砂層    | 13. 灰白色砂 砂層                  |
| 6. 灰白色砂 砂層    | 14. 褐灰色砂 砂層                  |
| 7. 褐灰色砂 粒子細かい | 15. 褐灰色砂 砂層                  |
| 8. 灰白色砂 砂層    | 16. 褐灰色砂質土 ブロック              |
|               | 17. 黑褐色砂 砂層                  |

0 (1:100) 2m

A・B・Cトレンチ土層断面図



A トレンチ平面（南から）



A トレンチ断面（南東から）



B トレンチ平面（東から）



B トレンチ断面（南東から）



C トレンチ平面（南から）



C トレンチ断面（南東から）

## 8 宮光園

- (1) 所在地 甲州市勝沼町下岩崎 1739
- (2) 調査面積 約 48.8m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 27 年 12 月 7 日～ 11 日
- (4) 調査原因 水路整備
- (5) 調査結果

調査地点は、下岩崎地内日川左岸の河岸段丘上に位置する。当地は埋蔵文化財包蔵地として登録されていなかったが、近代産業遺産宮光園の敷地内であり、今後も整備に伴う確認調査が予想されることから、平成 27 年 11 月 24 日付け（甲州教文第 80 号）遺跡発見通知により、新たに埋蔵文化財包蔵地「宮光園」（近現代）として登録される運びとなった。

今回の調査は宮光園敷地内における既存水路の改修工事に伴い、旧水路遺構の残存状態を確認するため、工事に先立ち、調査を実施することとした。

東三番蔵の北側を東西に流れる水路の北側部分に対してトレント（試掘坑）を設定した。東側のトレントを A トレント、西側を B トレントと呼称する。いずれも地表下 20 ～ 30cm で石積遺構を検出した。

これらを精査した結果、A トレントでは人頭大の丸い礫が 30 ～ 40cm ほどの間隔を空けて 2 列に配列されている状況が窺えた。しかし、列は不揃いで 1 段しか置かれておらず、水路とは考え難いため、地境または園路のような目的で配列されたものであると推測される（1 号園路）。

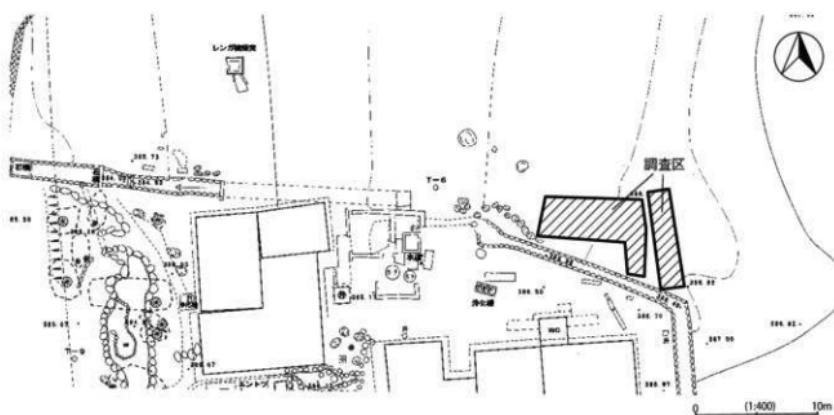
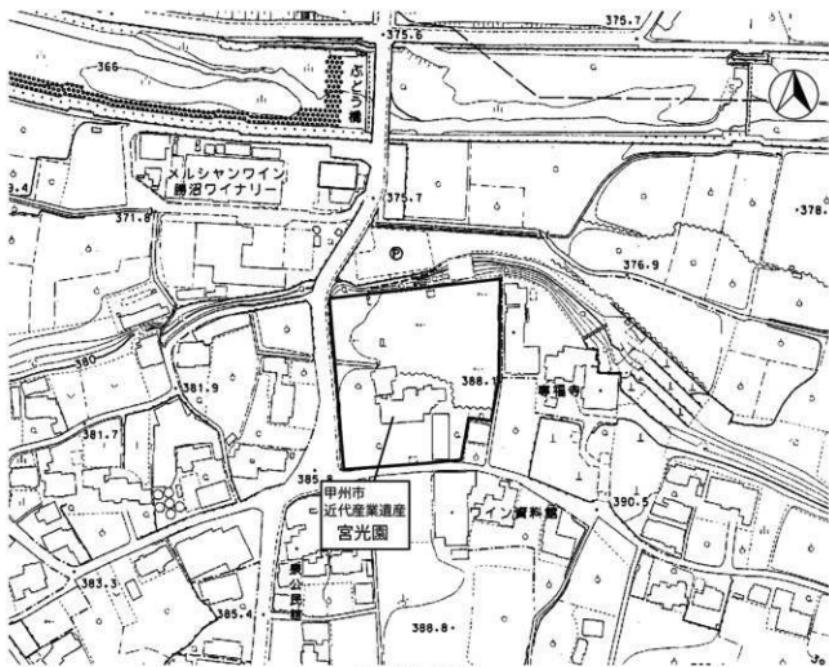
一方、B トレントでは南北方向に走る 2 段の石積水路（1 号水路）と、東西方向に走る 1 段（部分的に 2 段）の石積水路（2 号水路）が検出された。

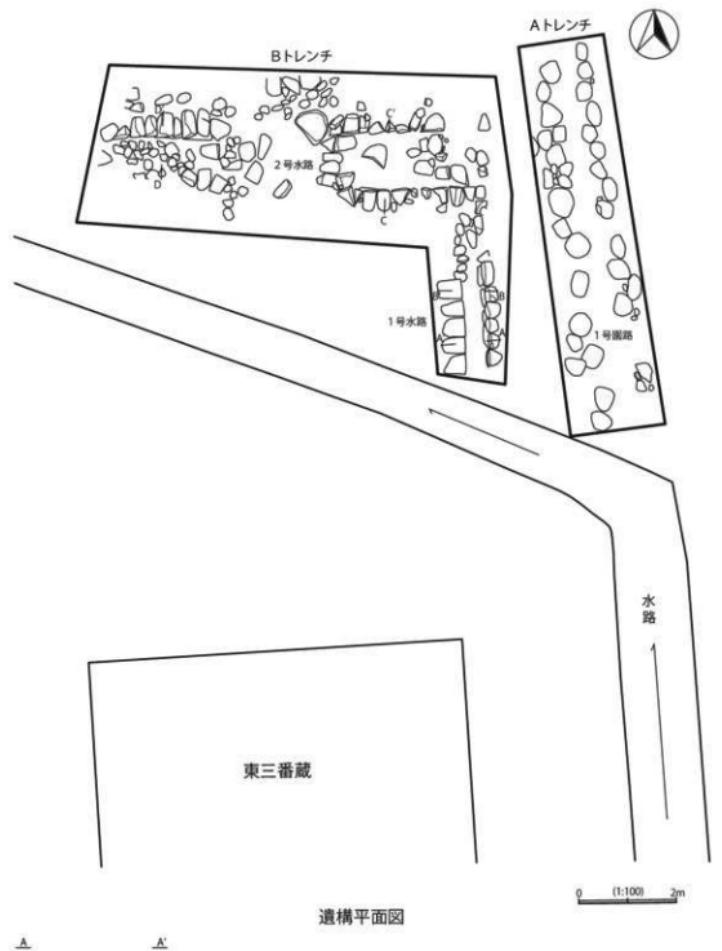
1 号水路は天端幅約 50cm、底幅約 30cm、深さ約 50cm を測る。トレント南端から 2.4m 分確認された。石積みは 2 段で、水路内側の面を削って平らな面を作り出している。北端は破壊を受け残存していない。

2 号水路は天端幅約 1.1m、底幅約 1.0m、深さ約 20 ～ 30cm を測る。残存状況は悪く最下段のみ 1 段、部分的に 2 段が石積として残存している。2 号水路の石積みが 1 号水路を閉塞する位置関係にあることから 2 号水路の方が新しいと考えられる。水路中央部分は攢乱を受け、石積みが存在していない。

遺物は調査区全体から近代磁器やガラス瓶破片を検出している。

調査の結果、A トレントで確認された石列は水路とは見なせず、地境または園路等の性格の 1 号園路とした。B トレントで確認された水路は、1 号水路が位置関係から東三番蔵東側側溝の延長部分と考えられ、2 号水路が旧水路の一部分と推定される。





遺構平面図



エレベーション図



1号水路検出状況（東から）



1号・2号水路検出状況（北から）



2号水路検出状況（東から）



1号園路検出状況（北から）

## 9 織塚向田 187-1 他

- (1) 所在地 甲州市勝沼町織塚向田 187-1、187-2、189-1、189-2、191-1、192
- (2) 調査面積 約 42m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 28 年 1 月 28 日
- (4) 調査原因 宅地造成
- (5) 調査結果

調査地点は、勝沼町織塚向田地内にあり、田草川右岸に位置する。当地は周知の埋蔵文化財包蔵地範囲内として把握されていないが、開発面積が大きく、工事を着手する前に、遺跡の有無を把握する試掘調査が必要であると判断されたため、協議の上調査を実施することとした。

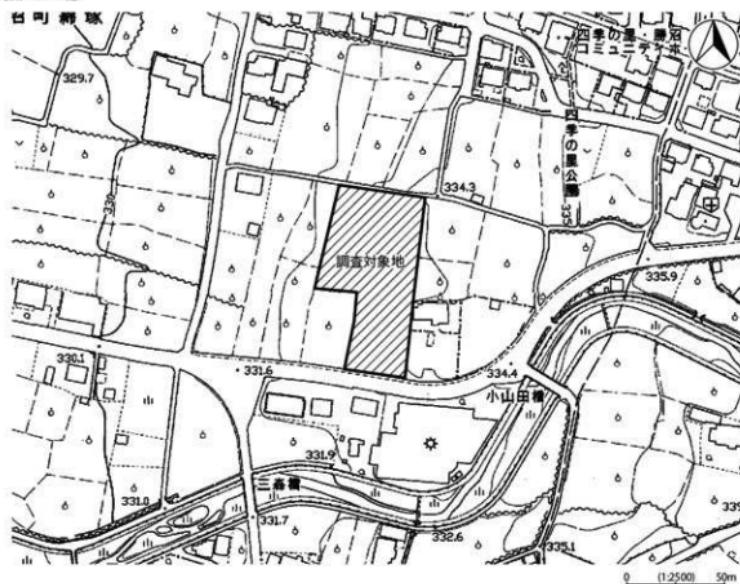
開発対象地区内に 3 か所の試掘坑（以下 A～C トレンチ）を設定した。

A トレンチは敷地の北西隅付近に位置し、10.7 × 1.5m の規模で設定した。地表から約 80cm 堀り下げたところで、しまりがやや強く、礫などの混入が少ない黄灰褐色土（断面図 4 層）を検出した。これより上層は夾雜物が含まれる盛土等の人為層と考えられ、4 層を基盤層としてこの面で遺構確認を実施した。その結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

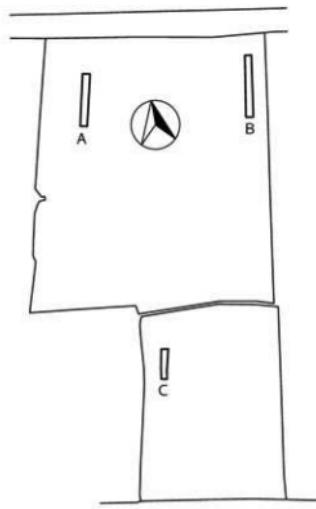
B トレンチは敷地の北東隅付近に位置し、12.m × 1.4m の規模で設定した。地表から約 80cm 堀り下げたところで、A トレンチと同様に基盤層と考えられる暗黄灰褐色土（断面図 5 層）を検出したため、この面で遺構確認を実施したところ、遺構・遺物ともに検出されなかった。

C トレンチは敷地の南端付近に位置し、6.2 × 1.3m の規模で設定した。この地点では転圧の痕跡が残っており、掘削が非常に難渋した。地表から約 15cm 堀り下げたところで、A・B トレンチで確認した基盤層（A 4 層、B 5 層）を検出しておらず、敷地北側と比べて表土が非常に薄くなっている。2 層・3 層上面で遺構確認を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査の結果、遺構・遺物ともに検出されなかったため、本調査の必要はないと判断した。

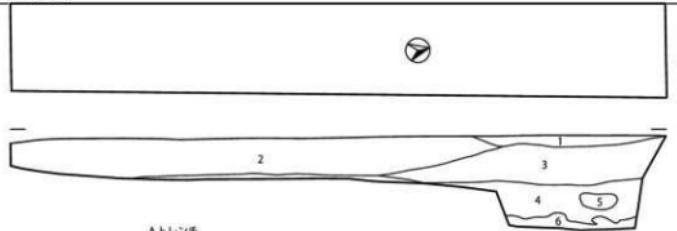


調査地点位置図



調査区位置図

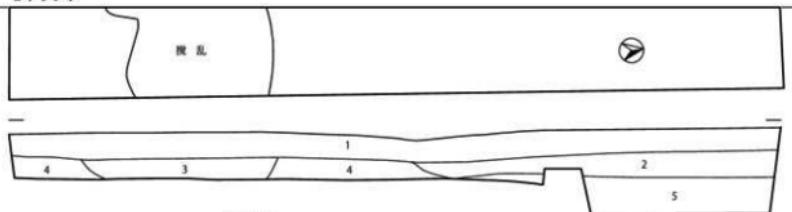
A トレンチ



A トレンチ

1. 褐灰色土 しまりややあり、粘性あり。小礫含む。搅乱。
2. 墓灰褐色土 しまりあり、粘性あり。礫少量含む。表土。
3. 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。礫少量含む。盛土。
4. 黄灰褐色土 しまりやや強い、粘性やや強い。小礫微量含む。基盤層。
5. 墓灰褐色土 しまり強い、粘性やや強い。黄灰褐色土ブロック含む。6層の一部。
6. 墓灰褐色土 しまり強い、粘性強い。礫分を少量含む。基盤層。

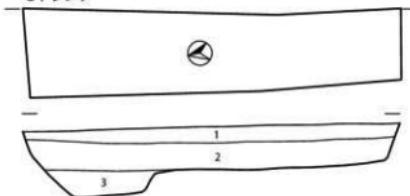
B トレンチ



B トレンチ

1. 墓灰褐色土 しまりあり、粘性あり。礫少量含む。表土。
2. 褐灰色土 しまりあり、粘性あり。礫少量含む。表土。
3. 墓灰褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。礫多量含む。搅乱。
4. 褐灰色土 しまりあり、粘性あり。礫微量含む。旧表土。
5. 墓黄灰褐色土 しまりやや強い、粘性やや強い。小礫微量含む。基盤層。  
なお、5層下は礫層となる。

C トレンチ



C トレンチ

1. 褐灰色土 しまり強い、粘性あり。小礫多量含む。表土。整地層。
2. 褐灰色土 しまり非常に強い、粘性やや強い。礫少量含む。基盤層か。軋圧の影響を受ける。
3. 褐灰色土 しまり非常に強い、粘性強い。小礫微量含む。基盤層。軋圧の影響を受ける。

0 (180) 2m

A・B・C トレンチ平断面図



A トレンチ遺構確認状況（南から）



A トレンチ土層断面（北から）



A トレンチ深掘り部分（東から）



B トレンチ遺構確認状況（南から）



B トレンチ土層断面（北から）



B トレンチ深掘り部分（東から）



C トレンチ遺構確認状況（南から）



C トレンチ土層断面（北から）

## 10 締塚大正 663-1 他

(1) 所在地 甲州市勝沼町締塚大正 663-1,663-3

(2) 調査面積 約 72.2m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 平成 28 年 3 月 23 日

(4) 調査原因 福祉施設建設

(5) 調査結果

調査地点は勝沼町締塚大正地内に位置し、重川と田草川の合流点付近の低地にあたる。当地は周知の埋蔵文化財包蔵地範囲内として把握されていないが、開発面積の規模が大きく、工事を着手する前に、遺跡の有無を把握する試掘調査が必要であると判断されたため、協議の上調査を実施することとした。

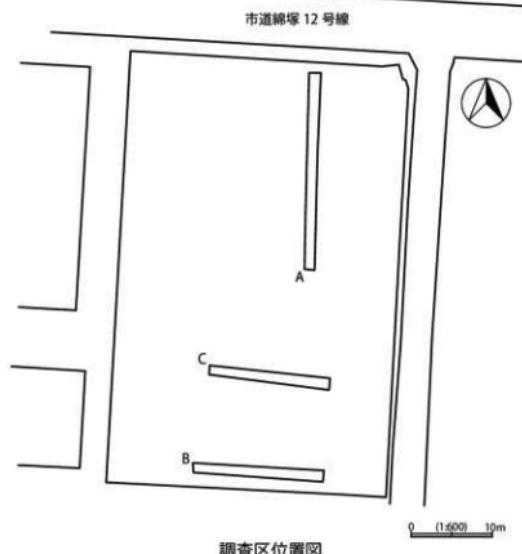
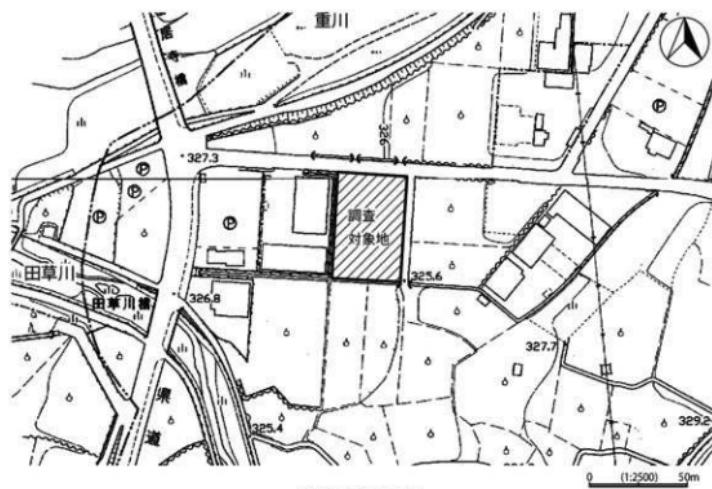
開発対象地区内に 3 か所の試掘坑（以下 A～C トレンチ）を設定した。

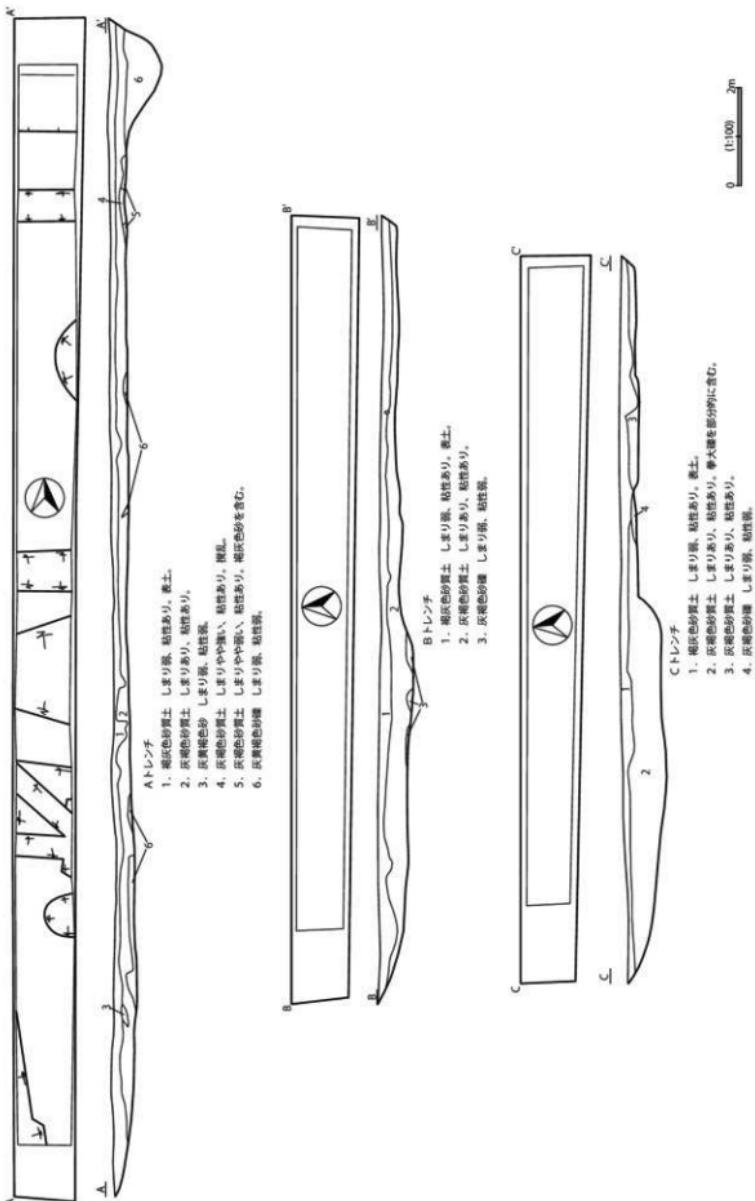
A トレンチは敷地の北半に南北方向に設定し、24.2 × 1.4m の規模を測る。地表から約 30cm 堀り下げたところで、灰黄褐色砂礫層を検出した。部分的に地表下 1m まで掘り下げたが砂礫層の堆積が続いている状況であった。このため砂礫層を基盤層として遺構確認精査を実施したが、遺構・遺物ともに検出されず現代の搅乱がいくつか検出された。

B トレンチは敷地の南端に東西方向に設定し、16.1m × 1.3m の規模を測る。地表から約 30～60cm 堀り下げたところで、A トレンチと同様に灰黄褐色砂礫層を検出したため、この面で遺構確認精査を実施したところ、遺構・遺物とともに検出されなかった。なお、トレンチの東西で砂礫層の検出高に差があり、旧地形は西側に向かって低くなる段差状を呈していたと考えられる。

C トレンチは A・B 両トレンチの中間に東西方向に設定し、14.9 × 1.4m の規模を測る。地表から約 30～40cm 堀り下げたところで、A・B トレンチで確認した灰黄褐色砂礫層を検出したため、この面で遺構確認精査を実施したところ、遺構・遺物ともに検出されなかった。なお、B トレンチと同様に、トレンチの東西で砂礫層の検出高に差があり、旧地形は西側に向かって低くなる段差状を呈していたと考えられる。

調査の結果、遺構・遺物ともに検出されなかったため、本調査を実施する必要ないと判断した。





A・B・C トレンヂ断面図



A トレンチ土層断面（南東から）



A トレンチ精査状況（南から）



A トレンチ深掘部分（東から）



B トレンチ土層断面（南西から）



B トレンチ精査状況（西から）



C トレンチ土層断面（南東から）



C トレンチ精査状況（東から）

## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成 27 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 21 集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒 404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5076
発行年月日	平成 29 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
横井・大木戸遺跡	山梨県甲州市塩山熊野 1496-4,495-2,485- 2,480-3,476-3	19213	塩 33	35° 41' 38"	138° 43' 57"	平成 27 年 4 月 9 日 ~ 4 月 10 日	約 139.7m <sup>2</sup>	市道整備
横爪氏屋敷	山梨県甲州市塩山上於曾 1435-14	19213	塩 214	35° 42' 27"	138° 44' 1"	平成 27 年 4 月 21 日 ~ 4 月 27 日	約 28.6m <sup>2</sup>	個人住宅
塙穴遺跡	山梨県甲州市勝沼町山 1682-1,1690,1689	19213	勝 63	35° 40' 47"	138° 43' 56"	平成 27 年 5 月 21 日 ~ 5 月 27 日	約 34.8m <sup>2</sup>	道路建設
塙山前遺跡	山梨県甲州市塩山上塙後 4	19213	塩 62	35° 42' 31"	138° 43' 20"	平成 27 年 7 月 22 日	約 13m <sup>2</sup>	道路建設
影井遺跡	山梨県甲州市塩山下於曾 225-1	19213	塩 39	35° 41' 49"	138° 44' 4"	平成 27 年 9 月 15 日 ~ 10 月 30 日	約 64m <sup>2</sup>	個人住宅
千手院前遺跡	山梨県甲州市塩山塙後 7294 5 筆	19213	塩 59	35° 42' 18"	138° 42' 56"	平成 27 年 10 月 21 日 ~ 10 月 23 日	約 229m <sup>2</sup>	宅地造成
横井・大木戸遺跡	山梨県甲州市塩山熊野 634-1	19213	塩 33	35° 41' 38"	138° 44' 1"	平成 27 年 11 月 4 日	約 55.3m <sup>2</sup>	宅地造成
宮光園	山梨県甲州市勝沼町下岩崎 1739	19213	勝 106	35° 39' 35"	138° 43' 24"	平成 27 年 12 月 7 日 ~ 12 月 11 日	約 48.8m <sup>2</sup>	水路改修
鶴塚向田	山梨県甲州市勝沼町鶴塚 187-1 ほか	19213	なし	35° 40' 31"	138° 42' 23"	平成 28 年 1 月 28 日	約 42m <sup>2</sup>	宅地造成
鶴塚大正	山梨県甲州市勝沼町鶴塚 663-1 ほか	19213	なし	35° 40' 30"	138° 42' 7"	平成 28 年 3 月 23 日	約 72.2m <sup>2</sup>	福祉施設建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
横井・大木戸遺跡	集落	縄文・平安	住居跡	土師器小片	本調査を実施する
橋爪氏屋敷	集落	平安～中世	溝、ピット	土師器、瓦質土器、須恵器、縁輪陶器	一部本調査
塚穴遺跡	散布地	縄文	なし	縄文土器、石器	
塙山前遺跡	散布地	縄文	なし	陶磁器片（近現代）	
影井遺跡	集落	縄文・平安	住居跡	縄文土器、土製品（出産土偶）、石器、土師器、須恵器、陶器	
千手院前遺跡	散布地	縄文・平安	溝、ピット	縄文土器片	本調査を実施する
横井・大木戸遺跡	集落	縄文・平安	なし	土師器・須恵器小片	
宮光園	近代産業遺産	近・現代	園路跡、水路跡	磁器・ガラス（近現代）	
綿塚向田	包蔵地外	不明	なし	なし	
綿塚大正	包蔵地外	不明	なし	なし	

